

障害者支援ソフト型フォローアップ事業

「帰国研修員活動支援」（本邦協力機関活動支援）に係る事業

報 告 書

平成 16 年 10 月

財団法人 日本障害者リハビリテーション協会

まえがき

本報告書は、独立行政法人国際協力機構の委託を受け、財団法人日本障害者リハビリテーション協会が 1983 年から実施している「リハビリテーション専門家コース」（2004 年度「職業リハビリテーションと障害者の就労コース」に名称変更）及び「障害者リーダーコース」の帰国研修員のニーズを把握し、そのニーズに対応した支援策を検討するために、2004 年 4 月から 10 月にかけて実施した調査の結果をまとめたものです。

本調査は、上記 2 コースの研修受講者全数を客体として、帰国研修員リストの作成及び現在の情報確認、ニーズの把握を行いました。調査結果に基づき今後のフォローアップ支援の一方策を提案しています。

本報告書が、国際協力の一環として行われる研修制度及び発展途上国の支援策検討の基礎資料として幅広く活用いただければ幸いです。

なお、本報告書には帰国研修員の個人情報に関する資料も含まれていますので、その取り扱いに十二分にご留意いただきたいと思います。

おわりに、この調査の企画及び実施にご尽力いただいた検討委員をはじめ関係各位に深く感謝するとともに、今後一層のご協力をお願いする次第です。

平成 16 年 10 月

財団法人 日本障害者リハビリテーション協会

目次

I	はじめに	1
II	事業内容	2
III	アンケート調査・分析結果	3
IV	今後に向けて	9
V	添付資料	
(1)	アンケート調査表送付用カバーレター	資料 1 ・・・ 10
(2)	アンケート調査表	資料 2 ・・・ 11
(3)	国別集計表	資料 3 ・・・ 15
(4)	アンケート調査データ集計	資料 4 ・・・ 16
(5)	アンケート調査記述回答まとめ	資料 5 ・・・ 31
(6)	事業実施経過	資料 6 ・・・ 44
(7)	日本の障害者福祉（2004年）（英語版）	別冊
(8)	障害関連分野 38 の法律（英語版）	別冊

I はじめに

障害者リハビリテーションに関するわが国の海外協力は、1981年（昭和56年）前後から計画的に拡大されてきました。

日本障害者リハビリテーション協会（以下「リハ協」という）においても、国際協力機構（以下「JICA」という）からの委託事業である「障害者リハビリテーション専門家コース（以下「専門家コース」という）及び「障害者リーダーコース（以下「リーダーコース」という）」について、開始以来約20年にわたり海外研修員に対する研修を実施し、400名近くの帰国研修員を輩出してきました。しかしながら、これら帰国研修員に対するフォローは十分行われているとは言いがたい状況にあります。帰国研修員の中には個人的に事務局と連絡を取り合っている者もありますが、多くの者は、その後の消息、居所さえ把握することが困難な状況にあります。また、研修終了後、自国と日本との経済状況等のギャップに悩むものも少なくなく、日本での研修の成果が十分に発揮されない、あるいは出来ないケースも多々あると聞いています。

そのような状況を打開していくためには、帰国研修員の現状を把握し、彼らの悩みや問題事項を共有するとともに、現地のニーズに基づいた方策によるフォローアップがその解決の手段としては効果的であると考えられます。

フォローアップ事業を実施することにより、研修事業の成果や効果の把握及び今後予定されている帰国研修員の事業実施のための助言や指導を行うことも可能となります。また、研修員の意見や要望を聴取し、今後の研修事業に反映させることも可能となります。将来的には、帰国後活躍している研修員を通して、日本との更に強力なパートナーシップの構築や当該国間の関係促進ともなりうると考えられます。これら連携関係の構築は、在外JICA事務所との連携も必要となることから、国際協力事業の円滑かつ効果的な実施に資することにもなります。

以上のことからして、政府開発援助の有効性を確保するため、フォローアップ事業を体系的に実施していくことは、喫緊の課題であるといえます。事業の実施に当たっては、当該国の実情を十分に勘案し実施されなければなりません。そのために、障害分野における有識者の意見を取り入れつつ、上記2コースの企画委員、海外支援を行っている当事者及びNPO等民間機関の協力を得て、検討委員会を設置し事業を実施したものであります。

Ⅱ 事業内容

1. 事業実施期間

平成 16 年 4 月 7 日から平成 16 年 10 月 31 日

2. 検討委員会の設置

「現況・ニーズ調査（アンケート調査）」及び「ホームページコンテンツ開発」業務の実施に当たり、当協会へ助言を与える検討委員会を設置した。

検討委員は協会から委嘱した。

(1) 委員委嘱期間 平成 16 年 5 月 10 日から 10 月 31 日まで

(2) 検討委員

上 野 博：JICA リーダーコース企画委員長、リサイクル洗びんセンター総務部長

小俣 典之：FHCY アジア障害者パートナーズ代表理事

寺 島 彰：JICA 専門家コース(現・就労コース)企画委員、浦和大学教授

中西由起子：アジア・ディスアビリティ・インスティテート代表

山口 和彦：JICA リーダーコース企画委員、ロゴス点字図書館副館長

(3) オブザーバー

中野 勉：JICA 人間開発チーム主査

木下真理子：JICA 人間開発チーム（専門家コース（現・就労コース）、リーダーコース担当）

二羽 泰子：〃

上野 悦子：リハ協国際協力専門職

(4) 事務局

東山 文夫：リハ協会事務局長兼企画研修部長

奥平真砂子：企画研修部研修課長

和山 貴子：〃 研修課

滝沢 彰子：〃 研修課

中谷 桂子：〃 研修課

(5) 検討委員会開催日

（検討委員会の詳細については、別添資料 7 事業実施経過参照）

第 1 回：平成 16 年 5 月 12 日

第 2 回：平成 16 年 9 月 3 日

第 3 回：平成 16 年 10 月 20 日

3. 現況・ニーズ（アンケート）調査

(1) 帰国研修員リストの作成

専門家コース 206 名（1983 年度から 2003 年度）

リーダーコース 168 名（1986 年度から 2003 年度）

合計 374 名

(2) 現行情報確認

アンケート調査表を郵送し調査した。（内容は別紙のとおり）

4. ホームページコンテンツ開発

(1) 提供する情報の検討と作成

・ 基本情報として・

① 「日本の障害者福祉の概要」の作成

② 「障害関連分野 38 の法律」の作成

(2) コンテンツの英訳・校正

上記の「日本の障害者福祉の概要」及び「障害関連分野 38 の法律」の英語版作成

Ⅲ アンケート調査・分析結果

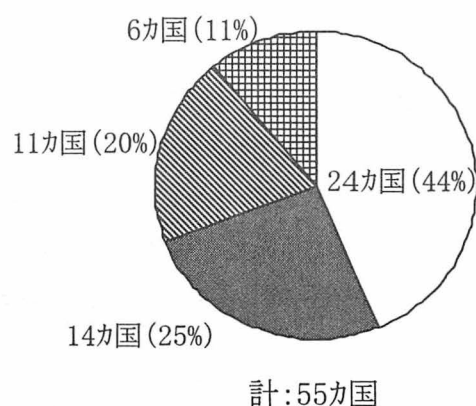
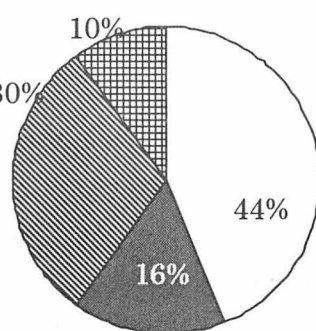
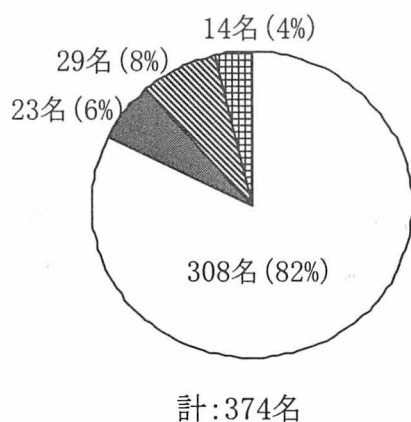
今回の調査対象は、専門家コース 206 名とリーダーコース 168 名の計 374 名である。そして、10 月 31 日現在の回答者数は 108 となっており、内訳は専門家コース 53 名、リーダーコース 55 名である。その回答結果は、以下のとおりである。

1. 配布・回答の状況

グラフ1:地域別対象者率&人数

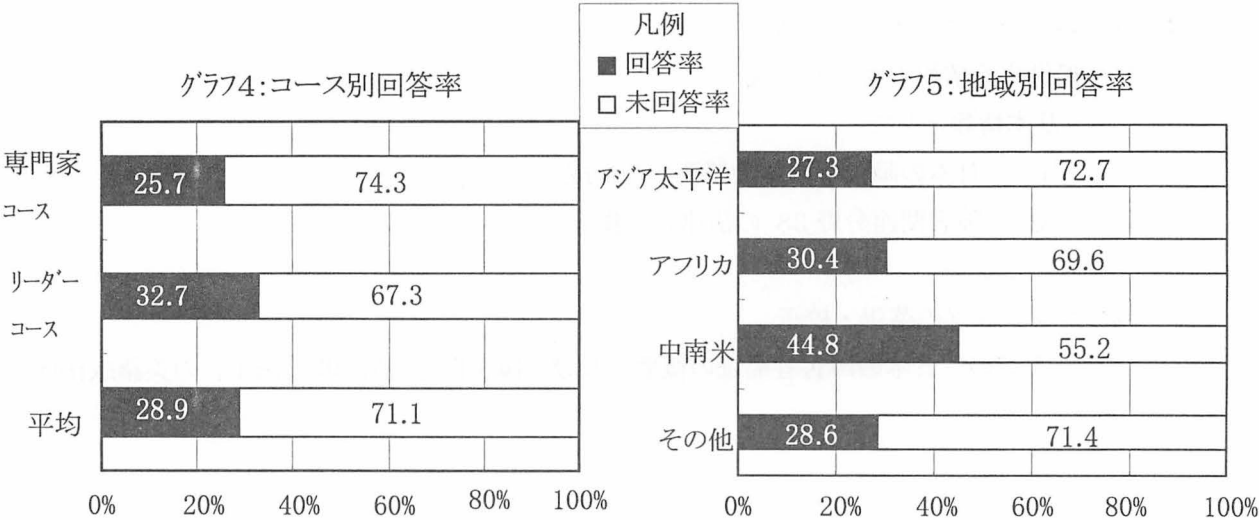
グラフ2:リーダーコース最近5年の人数率

グラフ3:地域別対象国率&国数



凡例
□ アジア太平洋
■ アフリカ
▨ 中南米
▤ その他

- ・ 全送付数の 82%（374 通中 308 通）はアジア太平洋地域である。（グラフ 1 参照）
- ・ これはコース開始当初、アジア地域からの要請が多く、専門家コースにおいては割当国の要望を、アジア太平洋地域に絞っていることも理由に挙げられる。
- ・ リーダーコースにおける最近 5 年間の研修員の地域別比率は、グラフ 2 のようにアジア太平洋地域以外の中南米、アフリカ地域からの研修員が増えていることが分かる。
- ・ 対象の約半分（55 か国中 24 カ国、44%）がアジア太平洋地域である。（グラフ 3 参照）



- ・ コース別に見ると専門家が 206 通中 53 通（25.7%）で、リーダーが 168 通中 55 通（32.7%）となっており、リーダーコースの回答率が高い。（グラフ 4 参照）
- ・ 地域別では、中南米の回答率が 29 通中 13 通（44.8%）と圧倒的に高い。（グラフ 5 参照）
- ・ アジア太平洋地域の回答率が低い理由として、ODA 卒業国となった韓国や香港、シンガポールからの回答が少なかったこと、調査票が手元に届かなかったこと、宛先不明で帰ってきたこと（45 通中 39 通は、アジア太平洋地域）、及び転職による住所移転などの影響も考えられる。帰国後、転職した帰国研修員数は、専門家コースは 22 名（42%）で、リーダーコースは 27 名（49%）だった。

2. 研修後のプロジェクト・活動

この項目の質問では、JICA との連絡の有無や帰国後の活動について聞いている。各質問について、多くの回答者が「はい」と答えている。帰国後実施したプロジェクトについても丁寧に答えている。（資料 5 参照）

表 1：活動・研修後のプロジェクト

質問	コース	はい	いいえ	未回答
現地 JICA 事務所にコンタクトを取ったか？	専門家	32 名	20 名	1 名
	リーダー	38 名	16 名	1 名
過去の JICA 研修員と連絡を取っているか？	専門家	34 名	19 名	0 名
	リーダー	43 名	10 名	2 名
帰国後、JICA 研修の知識を役立てたか？	専門家	48 名	5 名	0 名
	リーダー	49 名	5 名	1 名

- ・ 現地 JICA 事務所やこの研修員と連絡を取り合っている理由として最も多く挙がっているのが、情報収集である。
- ・ 両コースともに約 90%の回答者が、帰国後に JICA 研修で得た知識を役立てたと回答している。(表 1 参照)
- ・ 知識の役立て方については、両コースから多くの具体例が寄せられたが、特にリーダーコースの帰国研修員から、「人権・機会均等・社会参加の促進」が 10 例、「団体の設立・強化」は 9 例、「研修の実施及び人材の育成」が 22 例挙がるなど、「当事者ならではの」の活動を活発に続けていることが伺える。

3. インターネット環境

インターネット環境については、予想していたより多くの研修員が「アクセス可能」と回答している。(専門家：53 名中 38 名、リーダー：55 名中 46 名)しかし、両コースともにスリランカの研修員の多数が「アクセスできない」と答えており、将来的にも「財政的な問題でアクセスできない」と答えている。

インターネット接続スピードを問う質問は理解できなかった人が多いようで、「速い」と答えている人もいる。接続できている人の多くが事務所でアクセスしていることを考えると、自分の接続環境を知らないこともうなずける。

しかし、ネットによる情報提供を希望するものが多く、その内容は以下のとおりである。

表 2：求める情報の種類（重複回答あり）

項 目	専門家	リーダー
世界の障害者事情	38 名	45 名
最新技術情報	32 名	41 名
新しい日本の障害関連制度、法律	23 名	32 名
JICA 帰国研修員によるプロジェクト実施例	30 名	40 名

JICA 帰国研修員間の情報交換	35 名	42 名
研修・セミナーの情報	41 名	49 名
資金援助の情報	41 名	49 名
JICA 情報	32 名	39 名
その他	12 名	11 名

4. ニーズとフォローアッププログラムへの期待、及び将来計画

ニーズと期待、及び将来計画は記述式で回答されているので、KJ 法（注）で分類したところ、それぞれ 4 種類のカテゴリーにまとめることができた。

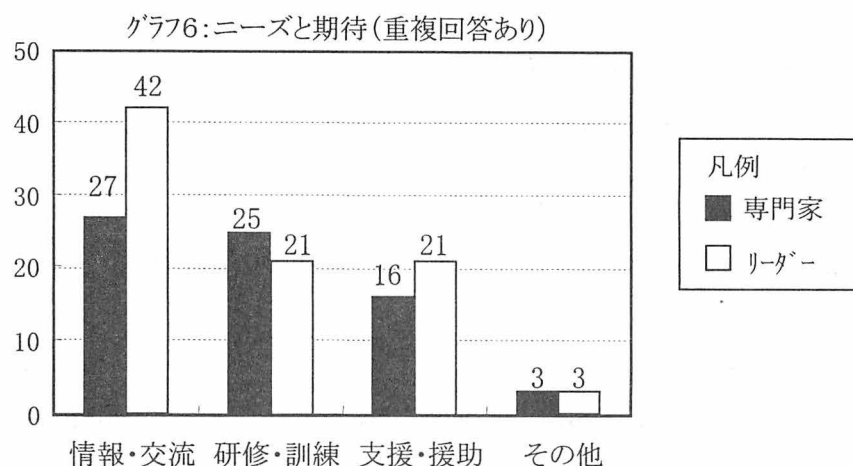
内容としては、インターネットの普及を背景に、両コースとも世界の障害者関連の動向、日本における最新の障害分野情報の入手要望、帰国研修員間での情報交換・交流、実施プログラムの紹介、及び連絡先入手の希望が多く寄せられた。

注：川喜田二郎氏（元東京工業大学教授、文化人類学者）が考案した創造性開発（または創造的問題解決）の技法で、川喜田氏の頭文字をとって KJ 法と名付けられている。ブレン・ストーミングなどで出されたアイデアや意見、または各種の調査の現場から収集された雑多な情報を 1 枚ずつ小さなカード（紙片）に書き込み、それらのカードの中から近い感じのするもの同士を 2, 3 枚ずつ集めてグループ化していき、それらを小グループから中グループ、大グループへと組み立てて図解していく。こうした作業の中から、テーマの解決に役立つヒントやひらめきを生み出していこうとするものである。

(1) ニーズとフォローアッププログラムへの期待

グラフ 6 の 4 種類のカテゴリーについて説明する。

- * 情報・交流：最新の世界・日本の障害分野の情報を手に入れたい、帰国研修員が実施しているプロジェクトを知りたい、帰国研修員と連絡を取りたいというものを 1 つにまとめた。
- * 研修・訓練：フォローアップ事業の一環として、上級者向けの研修を希望する、あるいは、帰国し活動するに伴い、ニーズが出てきた分野の研修や技術支援を JICA に実施して欲しいというものを 1 つにまとめた。
- * 支援・援助：機材購入や施設建設支援、資金援助などを 1 つにまとめた。
- * その他：上記の 3 分野以外。



① 専門家コース

- ・ 研修・訓練では、研修コースで得た知識を高めるためにフォローアップ研修希望の声が多く挙がっていた。
- ・ 支援・援助でも、大きく分けて技術支援、運営資金援助、機材供与（コンピューター機器）に分けられていた。

② リーダーコース

- ・ 情報の中には、世界の障害者関連の動向、日本の最新の障害者施策、制度、法律、JICA/リハ協の研修プログラム紹介、ホームページの立ち上げ、帰国研修員間のネットワークの構築も挙がっていた。
- ・ 交流の中には帰国研修員間の再会や、情報交換を希望する声も多くあった。
- ・ フォローアップ研修や補装具の技術研修などの要望があった。
- ・ 支援・援助は、技術支援、運営資金、機材供与（コンピューター機器、点訳機材）に分けられるが、これから立ち上げるプロジェクトに対して支援・援助を求めるものが多かった。

(2) 将来計画

表 3：将来計画内容

項目	専門家	リーダー
施設・団体設立	14 名	14 名
プログラム/プロジェクト実施	22 名	26 名
ネットワーク構築	0 名	7 名
支援	4 名	0 名

① 専門家コース

- ・ 施設・団体では、職業リハビリテーションセンターの設立が 6 件、作業所が 4 件、その他福祉団体、養護学校の設立などがあった。
- ・ プログラムでは CBR 関係 7 件、リハビリテーション関連 4 件、人材育成/能力開発 4 件などが際立っていた。
- ・ 事業をはじめたいが資金不足で出来ないという回答が 4 件あった。

② リーダーコース

- ・ リハビリテーション、訓練、情報などのセンター設立 6 件、作業所 4 件、団体 3 件、他に学校建設などがあった。
- ・ プログラム・プロジェクトでは障害者関連の施策、法律の制定に関わる 3 件、CBR 関係 3 件、その他手話訓練コース開設、視覚障害者関係、就労、生計プロジェクト、啓発など、非常に広範囲にわたる計画が立てられていた。
- ・ データベースを作り、強力なネットワークを立ち上げる計画が 7 件あり、専門家コースと大きな違いが見られた。

5. 総括

今回のフォローアップでは、374 名の対象者のうち 108 名 (28.9%) からの回答が得られた。宛先不明で戻ってきたものや ODA 卒業国などを考慮すると、3 分の 1 以上の回答があった。回答者は全ての問いに真摯に答えており、その多くが「今回のフォローアップに感謝する」というメッセージを送ってくれているところからも、フォローアップに対する期待の高さが伺える。

インターネット接続環境については、約 78%が接続可能と回答しているので、ホームページを利用したフォローアップは適切で、今後更にその利用性は高まると考えられる。ただ、依然として困難な環境にあるもののことを忘れてはならず、紙や点字などによる情報提供も必要かもしれない。

ニーズとフォローアッププログラムへの期待の回答について分析した結果、情報入手や帰国研修員間の交流を期待する声が多いことが分かり、今回のフォローアップ事業で作成するホームページがその期待に応えられるものと予想する。また、技術支援や資金援助に関する要望も多く寄せられているが、これに関してもホームページでの情報提供により対応することが望ましい。

次に多いのは、「フォローアップ研修や訓練を希望する」という回答であるが、それに応えるには現地での研修やセミナーの実施、各国の実情にあった技術訓練が考えられる。現地に出向くことで、研修や技術援助だけでなく、更なるニーズを把握できるだろう。

両研修は、20 年の長きにわたり、発展途上国の 54 カ国 374 名の研修員に対し実施されたが、その研修効果は、生計プログラムの樹立による経済的効果、研修会やセミナー等の実施による障害当事者の意識向上に伴う自立促進や社会参加機会の増大、また社会への普及啓発の促進等計り知れないものがある。今後ともフォローアップを継続し、必要に応

じ継続的に技術援助を続ける必要がある。

IV 今後に向けて

上記アンケート調査分析結果を踏まえ、次の事業を行う必要がある。

1. 平成 16 年度後半に取り組む事業

- (1) ホームページの作成
- (2) メーリングリストの作成
- (3) キーパーソンの選定

2. 平成 17 年度以降実施を検討する事業

(1) JICA フォローアップのための情報提供の継続実施

平成 16 年度事業として、ホームページによる情報提供を予定したところであるが、今後、内外における障害者福祉をめぐる動きは、著しいものがあると想定される。これらの情報を的確に把握収集し、随時、提供することは本事業の主要事項であるので、その体制整備は急務である。

(2) フォローアップ研修の開催

調査結果によると、研修員は情報の入手のほか、帰国研修員のプロジェクト実施例や帰国研修員間の情報交換を求めている。これらのニーズに的確に対応するためには、フォローアップ研修を実施し、研修後の活動状況の把握、事業進捗状況の把握を行い、的確な指導・助言する必要がある。

(3) 現地調査

本研修事業は、開始以来 20 年にわたり実施されてきたところである。わが国が、戦後、短期間で構築してきた社会福祉制度や培った経験や知識を学びに来日した研修員は、専門家コースが 200 余名、リーダーコースが 170 名弱である。これらの研修員の中には、現在 1 国を代表する要人となり、活躍しているものもいるが、大多数の者は、学んだ知識や経験を活かす機会が限られ、悩み迷っているものと思料される。調査結果による彼らのニーズに対処するため、また、彼らの将来計画実現のために、調査団を派遣し、直接的に指導・助言をすることが効果的であると考ええる。

(4) 在 JICA 事務所、青年海外協力隊との協力体制の構築

情報提供の手段について、インターネットにアクセスできない帰国研修員に対するアクセス確保のため、帰国研修員の現状把握、及びより良い研修実施のために、JICA 在外事務所又は青年海外協力隊員との協力要請を検討する必要がある。

JICA Follow-up Program

Leaders of Persons with Disabilities & Rehabilitation of Persons with Disabilities Courses

c/o Japanese Society for Rehabilitation of Persons with Disabilities (JSRPD)

Toyama 1-22-1, Shinjuku-ku, Tokyo 162-0052 Japan

Tel: +81-3-5273-0633 / Fax: +81-3-5273-1523 / E-Mail: inquiry@dinf.ne.jp

May 31, 2004

Dear ex JICA training course participants,

The Japanese Society for the Rehabilitation of Persons with Disabilities will conduct a survey to obtain important information necessary to support your activities in the future, in collaboration with the Japan International Cooperation Agency (JICA).

This survey provides you an opportunity to share with others your thoughts on what is needed in your respective country. We are currently considering the installment of a follow-up program for the ex JICA participants of “Leaders of Persons with Disabilities” and “Rehabilitation of Persons with Disabilities” courses. The follow-up program is to provide information and establish networks among the ex-participants working in the disability field, so that their missions would be more efficiently executed. To begin with, it is planned to establish a website to exchange information and make close liaisons.

Your views are quite valuable. The more feedback we receive, the better the results will be. Your personal information will be kept completely confidential. We also have an electric form of the questionnaire. The results of all the questionnaires will be put together and reported back to all of you. If any reason there arises a need to use some of your private information from the survey, we will ask for your permission.

The deadline is July 12th 2004. If you have any questions regarding this questionnaire, please do not hesitate to contact us at inquiry@dinf.ne.jp or +81-3-5273-0633.

Yours sincerely,

Fumio Higashiyama

Director

Secretariat of JICA Follow-up Program for

Leaders of Persons with Disabilities & Rehabilitation of Persons with Disabilities Courses

Questionnaire

(For JICA Follow-up Program)

I. Personal Data

1. Name : Mr./Ms. First / Last / Middle
2. Training Course ☐ Leader ☐ Rehabilitation Year attended
3. Home Address

_____ Country
- Tel _____ Fax _____
- Mobile Phone _____ E-mail _____
4. Date of Birth: Month / Date / Year
5. Disability: ☐ Physical ☐ Visual ☐ Hearing ☐ Others (_____)
6. Occupation at present
Title _____
Name of Organization _____
Office address _____

Tel _____ Fax _____
URL _____ E-mail _____
Responsibility ☐ Management ☐ Accounting ☐ Instructor ☐ Social Worker
☐ Clerical ☐ Teaching Staff ☐ Volunteer ☐ Others (_____)

II Your Activity/Project *After* Training Course

1. Have you contacted the JICA office in your country after the course?

- ☐ Yes ☐ No

Reason you contacted if answer is "Yes".

- ☐ Regarding Project ☐ Collect Information ☐ Greeting ☐ Others (_____)

2. Do you remain in contact with any ex-participants?

- ☐ Yes ☐ No

Reason you contacted if answer is "Yes".

- ☐ Regarding Project ☐ Collect Information ☐ Greeting ☐ Others (_____)

3. Have you utilized the knowledge obtained in the course in your activities/projects?

- ☐ Yes ☐ No

If answer is Yes, please describe your activities/projects briefly.

Name of Activity/Project	Period	Your Responsibility	How did you utilize it

If answer is “No”, any reason you did not?

III Your Needs on Internet and Other Matters

[Internet]

1. Types of information you require.

- ☐ Global trends on disability issues
- ☐ The latest technology information
- ☐ New Japanese systems, and laws on disabilities
- ☐ Prominent projects carried out by other ex-participants
- ☐ Exchange information among ex-participants
- ☐ Information on training/seminar opportunities
- ☐ Funding support information
- ☐ Information on JICA
- ☐ Others

()

2. Internet Access

Do you access the Internet?

- ☐ Yes (Please answer to A-E) ☐ No (Please answer to H-I)

If your answer is *Yes*, answer the questions follow.

A. What kind of Internet connection do you have?

- ☐ Dial-up ☐ 24-hour access from home ☐ LAN (local area network) at work
☐ Internet Café ☐ Others (_____)

B. What is the connection speed of the Internet access you have, if you know?

- ☐ less than 64 Kbps ☐ less than 1 Mbps ☐ less than 10 Mbps
☐ less than 100 Mbps

C. How often do you access the Internet?

- ☐ All the time ☐ Once a day ☐ 1 or 2 / week ☐ 1 or 2 / month

D. Where do you usually access the Internet?

- ☐ Office ☐ Home ☐ Office and Home ☐ Internet Café ☐ Others (_____)

E. How much do you pay for the Internet?

- ☐ Metered Charge (_____ US dollars per minute)
☐ Fixed Charge (_____ US dollars per month)
☐ Others (_____)

F. What do you usually access? ☐ E-mail ☐ Web ☐ E-mail and Web

If your answer is *No*, answer the questions follow.

H. Do you plan to start using the Internet in near future?

- ☐ Yes
☐ No (Reason_____)

I. How do you want to receive information from us?

[Others]

Describe your needs and expectations for the follow-up program.

Describe your future plans in the disability field if any.

If you have contact with ex-participants, please let us know their addresses.

1. Name

Mailing address or E-mail

2. Name

Mailing address or E-mail

3. Name

Mailing address or E-mail

Please return this questionnaire to the address below not later than July 12th.

Secretariat of JICA Follow-up Program for

Leaders of Persons with Disabilities & Rehabilitation of Persons with Disabilities Courses
Training Section, JSRPD

1-22-1 Toyama, Shinjuku-ku, Tokyo 162-0052 Japan

FAX: +81(0)3-5273-1523 Email : inquiry@dinf.ne.jp

Thank you for your cooperation!

国別集計表(2004年10月29日現在)

資料3

国名(50音順)	送付数			回答数			宛先不明	回答率
	総数	聴覚	視覚	総数	専門家	リーダー		
イラン	1						1	0.0%
インド	6		1	2		2		33.3%
インドネシア	34	1	2	7	2	5(視2)	1	20.6%
エジプト	2			1		1		50.0%
エチオピア	1			1	1			100.0%
エリトリア	1		1	1		1(視)		100.0%
ガイアナ	1			1		1		100.0%
ガーナ	2	1		1		1		50.0%
カーボヴェルデ	1							0.0%
韓国	12						8	0.0%
カンボジア	10		1	3	3			30.0%
クック諸島	1							0.0%
ケニア	2						1	0.0%
コスタリカ	1						1	0.0%
コロンビア	4		1					0.0%
コンゴ	1							0.0%
サウジアラビア	2		2					0.0%
ザンビア	3	2		1	1			33.3%
シンガポール	16	2	1	2	0	2(視1)	7	12.5%
スリランカ	22	1		9	5	4(聴1)	3	40.9%
セイシェル	1							0.0%
タイ	39	2	4	9	7	2(聴1,視1)	1	23.1%
タンザニア	2			1		1		50.0%
中国	15			3	1	2	2	20.0%
チュニジア	3		1				1	0.0%
チリ	6		1	3	1	2		50.0%
トルコ	1			1	1			100.0%
ナイジェリア	1							0.0%
ナミビア	1							0.0%
西サモア	1			1	1			100.0%
ネパール	12			6	4	2		50.0%
パキスタン	15	1		4	2	2	5	26.7%
バヌアツ	1			1	1			100.0%
パラグアイ	2							0.0%
パレスチナ	4			3	1	2	1	75.0%
バングラデシュ	10		1	4	2	2		40.0%
フィジー	7		1	3	1	2(視1)		42.9%
フィリピン	43	1		16	9	7	3	37.2%
ブラジル	2			2	2			100.0%
ブルネイ	2							0.0%
ベトナム	3							0.0%
ベネズエラ	1							0.0%
ペルー	3		3	3		3(視)		100.0%
ボリヴィア	3	1		1		1		33.3%
香港	18		1	2	1	1	4	11.1%
ホンジュラス	2		2	2		2(視)		100.0%
マレーシア	30	1	3	9	4	5(視1,聴1)	4	30.0%
南アフリカ	2	1		1		1(聴)		50.0%
ミャンマー	3			1		1		33.3%
メキシコ	4			1	1			25.0%
モルジブ	3			1	1			33.3%
モンゴル	2						1	0.0%
ヨルダン	5						1	0.0%
ラオス	3			1	1			33.3%
レバノン	1		1					0.0%
合計	374	14	27	108	53	55	45	28.9%

送付数の聴覚・視覚及びリーダーコースの回答欄の()書きは再掲である。未回答は計上せず。

JICA フォローアップ プログラム

アンケート調査データ集計

(2004 年 10 月 29 日現在)

* 研修員の回答をそのまま使用

研修コース名	「リハビリテーション専門家コース」
対象研修年度	1984年度 ～ 2003年度
対象人数	206名
回答数 (率)	53名 (25, 7%)

I. パーソナルデータ

業務責任/Responsibility (重複回答あり)

マネジメント	経理	インストラクター	ソーシャルワーカー	事務
29名	3名	7名	7名	0名
教職員	ボランティア	その他		
6名	1名	14名		
その他14名の内訳				
Technician, Clinical staff, Planner, Middle manager, Testing, Administrative staff, Field staff, Community, Professor (University), Assistant Professor, Lecturer, Clinic PT(2名), Physiotherapist				

II. 研修後のプロジェクト・活動 Your
Activities/Projects After Training Course

はい	いいえ	未回答
32名	20名	1名

1. 研修後、帰国して現地 JICA 事務所にコンタクトをとりましたか。/Have you contacted the JICA office in your country after the course?

「はい」の場合、その理由（重複回答あり）

プロジェクト関連	情報収集	挨拶
13名	14名	15名
その他2名の内訳		
To collect the information (1名), Aids for clinic (1名)		

2. JICA 帰国研修員と現在も連絡をとりあっていますか。/Do you remain in contact with any ex-participants?

はい	いいえ
34名	19名

「はい」の場合、その理由（重複回答あり）

プロジェクト関連	情報収集	挨拶
9名	16名	23名
その他6名の内訳（1名は回答なし）		
Not so well, Not enough time now, Office mates（3名）		

3. あなたの活動もしくはプロジェクトにおいて研修で得た知識を役立てましたか。/Have you utilized the knowledge obtained in the course in your activities/projects?

はい	いいえ
48名	5名

*研修で得た知識の役立て方

(1) 人権・機会均等・社会参加の促進に関すること

- 1) 障害者権利保護条約の草案作成に参画 (カンボジア)
- 2) 障害者の人権問題キャンペーン (タイ)
- 3) 国際障害者の日のセレモニーの開催 (西サモア)
- 4) バリアフリー推進プロジェクト (ザンビア)
- 5) 政府の障害者計画の具体化 (エチオピア)
- 6) 交通・コミュニケーションアクセシビリティ (フィリピン)

(2) 医学的分野に関すること

- 1) 日本で見学した精神障害者病院でのリハビリテーションの実施 (タイ)
- 2) 脳卒中患者の社会技能訓練 (フィリピン)
- 3) 診断の専門チームの技術向上のためのコーディネート (メキシコ)

(3) 働くことに関すること

- 1) 生計プロジェクトのための技能開発訓練の実施 (ネパール)
- 2) 自営のための訓練プログラムの樹立 (タイ)
- 3) 障害者の職業訓練とジョブプレースメント (スリランカ)
- 4) ダウン症、知的障害者に対する職業前訓練 (フィリピン)
- 5) 障害者に封筒作りの指導 (スリランカ)
- 6) 園芸プロジェクトの運営 (バヌアツ)
- 7) 障害者の農作業ワークショップ (フィジー)
- 8) 職業リハプログラムの企画立案 (インドネシア)
- 9) 職業リハの評価、職業ガイダンス (インドネシア)
- 10) 手工芸品製造 (ラオス)
- 11) ベーカリープロジェクトの開始 (マレーシア)
- 12) 職業訓練プログラムの作成 (フィリピン)

(4) CBR 分野に関すること

- 1) ハンセン氏病患者の CBR モデルの参加型実地研究 (タイ)
- 2) 地域社会における医療リハビリテーションの確立 (カンボジア)
- 3) CBR プログラムのプロジェクトオフィサー (フィリピン)

(5) 研修の実施

- 1) 社会的リハビリテーションに関する研修の実施 (タイ)

- 2) 身体障害者のリハビリテーションセミナーの実施（ブラジル）
- 3) 障害者フォーラムを TV で開催（カンボジア）
- 4) リハビリテーション法のキャンペーン（タイ）
- 5) 職業リハビリテーションの専門家対象にセミナーの実施（タイ）
- 6) 手話講習会講師として参加（マレーシア）
- 7) 障害者のエンパワーメント（ネパール）
- 8) 先天性情緒障害者の社会支援プログラムの研修（タイ）

(6) 施設の建設

- 1) 障害児刺激療法活動センター（STAC 障害児のリハビリテーションセンター）及びサテライトの設置（フィリピン）
- 2) 知的障害児センターの開設（スリランカ）
- 3) 障害者の授産施設（マレーシア）

(7) その他

- 1) ハンセン氏病患者の社会リハビリテーションの実施（タイ）
- 2) 障害児のための車椅子基金の立上げ（マレーシア）
- 3) 新設の職業リハビリテーションセンターを破壊され何も始められない状況（パレスチナ）

III. インターネットその他についてのニーズ/Your Needs on Internet and Other Matters

1. 求める情報の種類/Types of information you require. (重複回答あり)

38名	世界の障害者事情/Global trends on disability issues
32名	最新技術情報/The latest technology information
23名	新しい日本の障害関連制度、法律/New Japanese systems, and laws on disabilities
30名	JICA 帰国研修員によるプロジェクト実施例/Prominent projects carried out by other ex-participants
35名	JICA 帰国研修員間の情報交換/Exchange information among ex-participants
41名	研修・セミナーの情報/Information on training/seminar opportunities

41名	資金援助の情報/Funding support information
32名	JICA 情報/Information on JICA
その他 12名 (5名回答 なし)	その他/Others の内訳 ・ Information about institution in Italy. ・ Other Programs to train PWD. ・ Learning in the Japanese University. ・ Information for uplifting the plight of PWD in developing countries. ・ Sports organizations for PWD in Japan/ Good source of rehab. for encouragement. ・ Used PT equipments can be donated or get at low price. ・ Ex participants up dated address

2. インターネットアクセス/Internet Access

インターネットアクセスはありますか/Do you access the Internet?

「いいえ」の15名の内訳；スリランカ（5）、フィリピン（4）
カンボジア（2）、バングラデシュ、
エチオピア、ラオス、バヌアツ

はい	いいえ
38名	15名

「はい」回答者28名の場合（回答：A～F）

A. インターネット接続/What kind of Internet connection do you have? (重複回答あり)

ダイヤルアップ	24時間アクセス (家庭)	LAN (職場)	インターネットカフェ
15名	7名	17名	6名
その他 0名			

B. 接続スピード/What is the connection speed of the Internet access you have

64 Kbps 以下	1 Mbps	10 Mbps 以下	100 Mbps 以下	未回答
14名	2名	4名	1名	17名

C. インターネットアクセスの頻度/How often do you access the Internet?

いつも	1 日 1 回	週 1～2 回	月 1～2 回	未回答
7 名	1 1 名	1 6 名	1 名	3 名

D. インターネットを利用場所/Where do you usually access the Internet? (重複あり)

職場	家庭	インターネットカフェ
2 8 名	1 5 名	6 名の内訳 フィジー、インドネシア、パレスチナ、フィリピン(2) ザンビア
その他 1 名の内訳 Private		

C. インターネット使用料/How much do you pay for the Internet?

Metered Charge	Fixed Charge	Others	未回答
10 名 4,38 \$ (1)、2 \$ (1)、 1 \$ (2)、50 セント(1)、 40 セント(3)、21 ｷﾝ(1)、 0,39 ｷﾝ(1)	14 名 (1 名回答なし) 2,5\$(1), 4 \$ (1)、8\$(1)、 10 \$ (1)、20 \$ (4)、40 \$ (1)、60 \$ (1)、100 \$ (1)、 196,42 \$ (1)、200 \$ (1)	1 0 名 Pre-paid card, paid by government, paid by office(3), no idea, free of charge(4)	4 名

D. アクセス目的/What do you usually access?

E-mail	Web	E-mail and Web	未回答
5 名	2 名	3 0 名	1 名

「いいえ」の15名の場合（回答：H～I）

H. 近い将来にインターネットを使用する予定/Do you plan to start using the Internet in the near future?

「いいえ」4名の内訳；スリランカ（3）
バヌアツ（1）

はい	いいえ
11名	4名

*不明の1名は既にアクセスしている人が回答した。

「いいえ」の4名の理由

- ・ Financial problem 2名(スリランカ2名)
- ・ No Internet facilities 2名(スリランカ、バヌアツ)

I. 私たちからの情報はどのように受け取りを希望しますか。/How do you want to receive information from us? （全員回答せず）

・ by post (home)	7名
・ by post or e-mail	6名
・ After set up Internet, e-mail	2名
・ e-mail	3名
・ Urgent e-mail, others by post	1名
・ by post, Fax or e-mail	1名
・ by fax or e-mail	1名

JICA フォローアップ プログラム

アンケート調査データ集計

(2004 年 10 月 29 日現在)

* 研修員の回答をそのまま使用

研修コース名	「障害者リーダーコース」
対象研修年度	1986年度 ～ 2003年度
対象人数	169名
回答数 (率)	55名 (32, 5%)

I. パーソナルデータ

業務責任/Responsibility (重複回答あり)

マネジメント	経理	インストラクター	ソーシャルワーカー	事務
3 4 名	1 名	8 名	6 名	1 名
教職員	ボランティア	その他		
8 名	6 名	1 1 名		
その他 1 1 名の内訳				
Public relations, Student, Librarian, Rehabilitation services, Teacher of Art, Member, Braille transcription, Deaf development, CBR supervisor Sign language interpreter, Academician for deaf				

II. 研修後のプロジェクト・活動 Your Activities/Projects After Training Course

はい	いいえ	未回答
38名	16名	1名

1. 研修後、帰国して現地 JICA 事務所にコンタクトをとりましたか。 /Have you contacted the JICA office in your country after the course?

「はい」の場合、その理由（重複回答あり）

プロジェクト関連	情報収集	挨拶
18名	15名	16名
その他8名の内訳		
Volunteer training in sports for blind people, Reported, Send report of Training Course, Helping next JICA trainee, Gathering of JICA, Submit survey form, For the training, Get together party		

2. JICA 帰国研修員と現在も連絡をとりあっていますか。/Do you remain in contact with any ex-participants?

はい	いいえ	未回答
43名	10名	2名

「はい」の場合、その理由（重複回答あり）

プロジェクト関連	情報収集	挨拶
11名	26名	27名
その他5名の内訳（1名は回答なし）		
Reviewing relationship, Share information of other projects, Friendship, Unity among ex-participants		

3. あなたの活動もしくはプロジェクトにおいて研修で得た知識を役立てましたか。/Have you utilized the knowledge obtained in the course in your activities/projects?

はい	いいえ	未回答
49名	5名	1名

*研修で得た知識の役立て方

(1) 人権・機会均等・社会参加の促進に関すること

- 1) 障害者スポーツ大会に参加（ミャンマー）
- 2) 障害者雇用と社会教育のための規定の策定（中国）
- 3) 聴覚障害者の自立プログラム（南アフリカ）
- 4) 視覚障害者のためのサイバーカフェのコーディネート（ペルー）
- 5) 難民キャンプの家族へのエンパワーメント（スリランカ）
- 6) アクセシビリティキャンペーンの実施（インドネシア）
- 7) アクセシビリティモニタリング（フィリピン）
- 8) アクセシビリティプロジェクト（シンガポール）
- 9) 国内外の障害者関連法律本の収集（インドネシア）
- 10) 国営テレビへの手話の導入（スリランカ）

(2) 医学的分野に関すること

- 1) 義肢装具製作方法の指導と製作（パキスタン）
- 2) 医療ソーシャルワーカーへの上級訓練（香港）
- 3) 障害者用器具の製作（フィリピン）

(3) 児童・教育分野に関すること

- 1) 障害児保育の心理面の対策（エジプト）
- 2) 障害児対象のリハビリテーションプログラム（ネパール）
- 3) 日本の聾学校の教授方法の導入（スリランカ）

(4) 働くことに関すること

- 1) 障害を持つ女性の雇用プロジェクトの立上げ（フィリピン）
- 2) 資金調達（バザー）（マレーシア）
- 3) 重複障害・視覚障害を持つ青年への職業リハ（ボリビア）
- 4) 総合リハセンターにおける障害者雇用（エジプト）
- 5) 小規模ビジネス支援（フィジー）
- 6) 聴覚障害者の職業訓練をコーディネート（ガーナ）
- 7) 視覚障害者のためのサイバーカフェのコーディネート（ペルー）
- 8) 生計プロジェクト（フィリピン）
- 9) 障害者協同組合の生産性センター（フィリピン）
- 10) 障害を持つ青年に対する職業訓練（ボリビア）
- 11) 家畜飼育と家庭園芸プログラム（スリランカ）

- 12) 戦争負傷者・難民キャンプの障害者のための生計プログラム（スリランカ）
- 13) 貧困撲滅政策プログラム（タンザニア）

（５）CBR 分野に関すること

- 1) CBR への新制度の導入（香港）
- 2) CBR プログラム（フィリピン）
- 3) 村落レベルにおけるリハビリテーション（スリランカ）
- 4) CBR スタディツアー（フィリピン）

（６）研修の実施及び人材の養成

- 1) 視覚障害女性のためのセミナー、ワークショップの開催（インド）
- 2) 障害者関連のワークショップ・シンポジウムの開催（インドネシア）
- 3) 2 地域においてリーダーシップトレーニングの実施（ネパール）
- 4) コミュニティアウェアネスセミナーの開催（フィリピン）
- 5) 13 カ国 120 人の研修員にパソコン点訳の研修実施（マレーシア）
- 6) 障害者のための建造物・雇用・教育・コミュニケーションアクセシビリティの活動（バングラデシュ）
- 7) ソーシャルワーカーの育成（バングラデシュ）
- 8) チャリティプロジェクト（中国）
- 9) 盲人協会のキャパシティビルディング（エリトリア）
- 10) 国内及びアジア太平洋の他の団体とのネットワーク及び協力体制（フィジー）
- 11) 10 ヶ月のコーディネーター養成プロジェクト（ホンジュラス）
- 12) リハビリテーション分野の職員研修（香港）
- 13) DPI 地域集会の開催（インド）
- 14) インドでリーダーコースの研修実施（インド）
- 15) ピアカウンセリングの実施（インドネシア）
- 16) リーダーシップ研修（ファシリテーター研修）の開催（インドネシア）
- 17) 障害者選挙制度の勉強会の実施（ペルー）
- 18) 障害者福祉協会のリーダーシッププログラム（シンガポール）
- 19) 障害者フィルムフェスティバル（スリランカ）
- 20) ワークショップとシンポジウムの開催（インドネシア）
- 21) 農業都市開発（訓練指導）（インドネシア）
- 22) 聴覚障害者のための職業訓練のコーディネート（ガーナ）

(7) 団体の設立・強化

- 1) 日本の障害者運動的に組織改革（ペルー）
- 2) ペルー盲人連合会の10年計画の策定（ペルー）
- 3) 自助グループの強化（フィリピン）
- 4) 就労障害者のためのエンパワーメントを目的とした協会の設立（インドネシア）
- 5) JFDのような団体の設立及び代表就任（マレーシア）
- 6) 障害者団体間のネットワーク作り（ネパール）
- 7) 障害者地区協議会の創設（チリ）
- 8) ILセンタープロジェクト（チリ、ホンジュラス）

(8) 施設の建設

- 1) 障害者用特別車両の整備（チリ）
- 2) スポーツ施設の建設（チリ）
- 3) 障害者適応住宅（フィジー）
- 4) 障害児リハビリセンターのサテライトの創設（フィリピン）
- 5) 障害者センター設立のための地方政府との協議（フィリピン）
- 6) 環境開発プログラム（スリランカ）
- 7) 政府と共同での住宅プログラム（スリランカ）

(9) その他

- 1) 社会リハビリテーションサービス（施策とプログラム作成）に従事（インドネシア）
- 2) プロジェクトを立ち上げる予定の職業リハビリテーションセンターが破壊されてしまった（パレスチナ）

III. インターネットその他についてのニーズ/Your Needs on Internet and Other Matters

1. 求める情報の種類/Types of information you require.（重複回答あり）

45名	世界の障害者事情/Global trends on disability issues
41名	最新技術情報/The latest technology information
32名	新しい日本の障害関連制度、法律/New Japanese systems, and laws on disabilities

40名	JICA 帰国研修員によるプロジェクト実施例/Prominent projects carried out by other ex-participants
42名	JICA 帰国研修員間の情報交換/Exchange information among ex-participants
49名	研修・セミナーの情報/Information on training/seminar opportunities
49名	資金援助の情報/Funding support information
39名	JICA 情報/Information on JICA
その他 10名 (1名未回答)	その他/Others の内訳 • Job opportunities in International organizations oriented to disability field. • I'm interested in all of these items listed here. • I'm requesting if you could send me the addresses of my group (2002), because I lost them. • Letter magazine, news letter and any photos concerning disabled from any places of the workers. • Conduct barrier free movement • Learning different kind art in Japan • Information that will help all developing countries achieving a uniform/ target minimum standard for acceptable levels of accesibility for PWDs to attain true equalization of opportunity. • Deaf education and teaching researching sign language. • Scholarship for funds their study for disabled persons.

2. インターネットアクセス/Internet Access

インターネットアクセスはありますか/Do you access the Internet?

「いいえ」 9名の内訳 ; スリランカ (2)、バングラデシュ
エリトリア、フィジー、マレーシア
ミャンマー、インド、インドネシア

はい	いいえ
46名	9名

「はい」回答者46名の場合（回答：A～F）

A. インターネット接続/What kind of Internet connection do you have? (重複回答あり)

ダイヤルアップ	24 時間アクセス (家庭)	LAN (職場)	インターネットカフェ
21名	7名	11名	11名
その他2名の内訳			
24 hour access from office, from home, not yet. 24 hour from home and office but not available at work.			

B. 接続スピード/What is the connection speed of the Internet access you have

64 Kbps 以下	1 Mbps	10 Mbps 以下	100 Mbps 以下	未回答
14名	8名	4名	5名	15名

C. インターネットアクセスの頻度/How often do you access the Internet?

いつも	1日1回	週1～2回	月1～2回
10名	21名	11名	4名

D. インターネットを利用場所/Where do you usually access the Internet? (重複あり)

職場	家庭	インターネットカフェ
32名	21名	11名の内訳 ボリビア、チリ、エジプト、ガーナ、 ホンジュラス、インドネシア、パキスタン、 パレスチナ、フィリピン(2)、タンザニア
その他0名		

E. インターネット使用料/How much do you pay for the Internet? (重複回答あり)

Metered Charge	Fixed Charge	Others
17名 (2名未回答) 1 \$ (6)、90 ㄱ (1)、50 ㄱ (2)、 34 ㄱ (1)、15 ㄱ (1)、 13,6 セント (1)、10 セント (1)、 4,6 ㄱ (1)、0,5 ㄱ (1)	28名 (2名未回答) 120, 100\$ (2)、53,77 \$、50 \$ (2)、 44 \$、40 \$、35 \$、30 \$、25 \$ (2)、 20 \$ (5)、15~20 \$、18 \$、17 \$、 16,15 \$、15 \$、12 \$、7,65\$、6\$、 3\$/hour	5名 (1名未回答) ・ Usually I access at my office, at home, it is not so much. ・ Office pays(2) ・ Card

F. アクセス目的/What do you usually access?

E-mail	Web	E-mail and Web
5名	0名	42名

* アクセスしていない参加者が1名回答している

「いいえ」の9名の場合 (回答：H~I)

H. 近い将来にインターネットを使用する予定/Do you plan to start using the Internet in the near future?

はい	いいえ
7名	2名

「いいえ」2名の理由

- ・ Financially we are not in good standard and we have no equipments.(スリランカ)
- ・ No aid device for the blind and financial problem (インドネシア)

I. 私たちからの情報はどのように受け取りを希望しますか。/How do you want to receive information from us?

- | | |
|------------------------------|----|
| ・ by post | 6名 |
| ・ by post or e-mail | 4名 |
| ・ e-mail | 7名 |
| ・ Fax | 1名 |
| ・ Print/Braille/Talking book | 1名 |

ID	国名	氏名	年度	職業	団体	研修で得た知識の役立て方	現在のニーズ	フォローアップへの期待	将来計画
117	Bangladesh	Ms. Ferdous Akhter SYEDA	1995	Teacher	National Center for Special Education	1年間のプロジェクト(技術開発・リーチングメソッド・社会意識向上・意見交換・自信をつけさせる)。	統合的指導とインクルーシブな教育の実施。最新の科学技術の導入。コンピュータを使用して障害者プログラムを紹介。予備職業訓練と職業訓練(家畜飼育場/農業)。障害者がレクリエーションに使用できる公園を造り、障害者が製作した製品を販売する。	障害者のプログラム強化のための支援。	発展した国々と開発途上の国々で障害分野についての意見交換をしたい。開発途上国の障害分野に即したテクノロジーの導入。障害者が社会で普通の生活を送れるようにするために良い教育、設備を提供したい。異なった障害のプログラムと他の社会開発プログラムを統合させる。
127	Bangladesh	Mr. Md. Ruhul AMIN	1996	Junior Engineer	Employment Rehabilitation Centre for the Physically Handicapped (ERPH)	帰国後、勤務先と社会福祉省に日本での研修報告。	最新のリハビリテーションマネジメントについての知識。	専門の機械工学の訓練の受講希望。国際的リハビリテーションの現状の情報希望。	リハビリテーションと教育の福祉団体の設立。そして障害者だけでなく非障害者にも開放したい。
50	Brazil	Ms. Minako SAO	1988	Occupational Therapist (OT)	Sao Paulo Prefecture, PCA Centenario de Vila Prudente, 108	職業リハビリテーションの作業療法。身体・神経障害のリハビリテーション。精神衛生の作業療法。ハンセン氏病のOT。公衆衛生の作業療法等。	記載なし。	判読不可。	会議・コミュニケーションの場所を設ける。シンポジウムやワークショップ等にも使用できるようにする。
59	Brazil	Ms. Ines Meirelles Munes.DE LUCCA	1989	Sociologist	National Institute of Welfare (INSS)	サンパウロの身体障害者にセミナーの開催。JICAの支援を受け、身体障害者のリハビリテーションセミナーの開催。	現在、イタリアに在住だが、近いうちにブラジルに戻りリハビリテーションの仕事に戻る。	継続的に情報を交換し学び合う。	ブラジルでは障害者はまだ重要視されていないので障害者施設建設のための企画を立てる。
140	Cambodia	Mr. Kim Thon KEO	1997	Deputy Director	Ministry of Social Affairs, Labour & Veteran Affairs	13章87条の障害者権利保護規約の草案作成に関わる。リハビリテーション分野の強化。義肢装具(国際規格)製作の訓練。地域社会における医療リハの確立とサービスの提供。障害者の職業訓練とジョブプレースメント。	記載なし。	過去の研修員との意見交換を可能にする。	障害者関連データの管理。障害者の権利保障。身体障害者リハビリテーションの準備。職業訓練プログラムの展開。障害者の自助グループの展開。身体障害者のために出入口のアクセスを良くする。
159	Cambodia	Mr. Veasna YI	1999	NCDP Exective Director and NPCC Secretary General	National Centre of Disabled Persons and National Paralympic Committee of Cambodia	テレビで障害者フォーラムを開催した。	記載なし。	記載なし。	記載なし。
171	Cambodia	Mr. Bouth BOREY	2000	National Trainer of Social work training	Directorate of Social Affairs and Youth Rehabilitation	記載なし。	記載なし。	社会サービスのマネジメント技術・障害者のリーダーとしてのスキル・資金調達方法等の技術を更に学びたい。フォローアッププログラムで障害者のためのプロジェクトがスムーズに進むように管理して欲しい。	障害者職業リハビリテーションセンターを設立し、センター修了後に自分で利益を捻出できるようにしたい。センターではコンピューター・テレビ・テープレコーダーの修理、調理、エレクトロニクスの溶接等を教授する。また、研修員には将来教える側にもまわり、センターの枝葉を広げて欲しい。
51	Chile	Mr. Mario TORRES	1988	PT	Mutual De Segvridad	プログラムを立ち上げた。	記載なし。	記載なし。	リハビリテーション分野の調査をしたい。

リハビリテーション専門家コース/アンケート調査記述回答まとめ(2004年10月29日現在)

資料5

ID	国名	氏名	年度	職業	団体	研修で得た知識の役立て方	現在のニーズ	フォローアップへの期待	将来計画
108	China	Mr. Mofu KE	1994	Deputy Director	Guangdong Provincial Disabled Person's Federation	職業リハビリテーションプロジェクト	グローバルなシステムと障害関連の法律	記載なし。	聴覚障害児のための言語療法
201	Ethiopia	Ms. Bekelu Wakjira IDOSSA	2003	Statistician	Ministry of Labour and Social Affairs	政府の年次計画の中で障害者計画を具体化させた。	リハビリテーションの専門家が少ない。	記載なし。	障害者の政府の政策に積極的に関わっていきたい。障害者の就労の権利を立法化するように働きかける。障害者リハビリテーションのプログラムを実行しているNGOと協力し合い作業する。
202	Fiji	Mr. Amenatave Vio VERE	2003	Teacher	Fiji Vocational & Technical Center for People with Disabilities	障害者のための農作業のワークショップ	記載なし。	研修で学んだことのフォローアップが重要。そして現在取り組んでいるプロジェクトが最重要(途中で文章が切れている)。	障害者に雇用の機会を与える作業所を建設する
31	Hong Kong	Mr. Kin Fun Joseph KWOK	1986	Associate Professor	City University of HongKong	政策策定委員会。国内・国外のネットワークとの協力体制。地域におけるセミナーや会議の開催。	記載なし。	過去の研修員間で協力体制を強化し、役立つ支援ネットワークを組織する。	香港ならび担当地域における活動を精力的に継続する。
19	Indonesia	Ms. Siti Rusdenia RUSAD	1985	The Head of Psychology Department	Hasan Sadikin Hospital	日本の個別研修で学んだ心理学的評価方法の実施。実践的な訓練方法は適応できた。失聴者や言葉が遅い場合の心理学的テストの実施。	日本の農村や地域社会にある施設を訪問する機会を得た。(インドネシアでは人口の8割が農村で生活している)障害者の家庭を個人的に訪問したい。アクセスについても情報を得たい。	日本で再度訓練を受けたい。	州・地域レベルの統合的、総合的リハビリテーションに携わる職員の知識と技能の強化を図る。西ジャワ州の障害を持つ患者の担当職員や障害者管理全般に携わる職員に対する知識と技術の向上を図る。
182	Indonesia	Mr. RIDWAN, Drs.	2001	Staff of Planning Program and Vocational Evaluation	National Vocational Rehabilitation Center for Disabled People (NVRC)	職業リハビリテーションプログラムの企画立案。プログラム参加者のリクルート。職業リハビリテーション評価。職業ガイダンス。	記載なし。	JICAに過去の研修員のための就労コースの研修を組んでほしい。それにより過去の研修員が知識・技能を高められる。	より良い職業ガイダンス技術を行う。障害者のためにより良い職業評価を行う。障害者のリクルートシステムを実行に移す。
162	Laos	Ms. Daravone MANIVONG	1999	Rector of Deaf School	National Rehabilitation Center	手工芸品製造。ダウン症についての紹介。統合教育。	学校で生徒に手工芸を教える際の対処法。	他の国における手工芸についての情報。統合教育の研修を日本で開催して欲しい。	障害者の自己依存(Self-reliance)の推進。国内における統合教育対策。教師の教授技能を高める。視覚・聴覚障害者への教授法マニュアルの作成(ラオ語版)。
71	Malaysia	Mr. Kasim Bin YUNUS	1990	Director	Social Welfare Department	障害者のための授産施設。	記載なし。	JICAにフォローのためのコースに参加する機会を設けて欲しい。	遠隔地のCBRプログラムの発展。
101	Malaysia	Mr. Abdullah Bin YUSOFF	1993	Lecturer	Kota Bharu Teacher Training College	手話講習会(講師並びスタッフとして参加)。障害児教育(モチベーター)。	障害児教育。聴覚障害児教育法。障害者の様々な職業訓練。	記載なし。	聴覚障害児の教育法を調べ、大学に進めるレベルまで高めたい。
163	Malaysia	Mr. Meor Ariff Johan AHMAD	1999	Workshop Manager	Bengkel Daya Klang (Sheltered Workshop for the Disabled)	郵便物の印刷事業の開始。印刷事業に代わりペーパープロジェクトの開始。	記載なし。	記載なし。	記載なし。

リハビリテーション専門家コース/アンケート調査記述回答まとめ(2004年10月29日現在)

資料5

ID	国名	氏名	年度	職業	団体	研修で得た知識の役立て方	現在のニーズ	フォローアップへの期待	将来計画
175	Malaysia	Mr. Lim WEN YEH	2000	Committee Member	Double Blessing	フレンドリーシティキャンペーン。障害児のための車椅子基金の立ち上げ。	記載なし。	過去の研修員と再会する機会を設けて欲しい。	記載なし。
184	Maldives	Mr. Ijazulla Abdulla ALI	2001	Project Manager	Care Society	CBRプログラム。アウェアネス。政策を変える。	記載なし。	過去の研修員が更に知識を高められるようなプログラムにして欲しい。	継続してCBRプログラムを推進する。島国におけるCBRについての調査をして、結果を世界中の人に報告する。
203	Mexico	Ms. Nanci Tapia VILLEGAS TAPIA	2003	Investigator	Association for Persons with Cerebral Palsy	診断(Diagnosis)の専門チームの技術向上のためのコーディネート。	神経系統の疾病について知りたい。	日本でのコースの情報。修士課程の勉強が出来る機会があれば知りたい。	診断法について詳しく知り、障害者が自分の問題を理解できるように努めたい。また、心理学も教えたい。
91	Nepal	Mr. Hari Binod ADHIKAREE	1992	Campus chief	Kathmandu Education Campus	政府が研修で得た経験・知識に対して関心を示さなかったため役立てられていない。	記載なし。	帰国研修員と再会し、お互いの経験・知識を共有したい。JICAからの支援。	キャンパスに特殊教育クラスを開講したい。
111	Nepal	Mr. Ishiwory ADHIKARI	1994	Vice President	Nepal Disable Association	記載なし。	記載なし。	記載なし。	記載なし。
143	Nepal	Mr. Ram Prasad DHUNGANA	1997	今回は記載なし(研修受講時: Job Prog. Coordinator cum Vocational Instructor)	今回は記載なし(研修受講時: Nepal Society of the Disabled (NSD), Vocational Training Center (VTC))	生計プロジェクトのための技能開発訓練実施。プロジェクト受益者のための組合を設立。	記載なし。	帰国後、JICAとに連絡をしたが、フィードバックも支援も得られなかった。今回の様なフォローアップは定期的に行われるべきである。	障害者の生計プログラムに繋がるような様々な職業技能開発訓練を各々の障害とコミュニティのニーズに基づき、コミュニティレベルで立ちあげる。
193	Nepal	Mr. Hari Ram PANT	2002	Section Officer	Ministry of Education and Sports, Department of Education	日本で得た知識を団体職員に教授。2003年からマスメディアを使い障害者に対する意識を高めた。ネパールの障害者のエンパワーメント。	記載なし。	記載なし。	障害児教育をメインストリームに載せインクルーシブな教育をする。障害児が教育を受けられるように支援する。
185	Pakistan	Mr. Muhammad Khalid LATIF	2001	Social Case Worker	National Institute for Handicapped	イスラマバード郊外にCBRを立ち上げた。	記載なし。	イスラマバードのJICA事務所、研修員、施設に派遣されている日本のボランティアと連絡を取り合っている。	WHOの協力を得てチャックマル地区にCBRを立ち上げる。

リハビリテーション専門家コース/アンケート調査記述回答まとめ(2004年10月29日現在)

資料5

ID	国名	氏名	年度	職業	団体	研修で得た知識の役立て方	現在のニーズ	フォローアップへの期待	将来計画
166	Sri Lanka	Mr. Mahamendisge Ranjith Shantha KUMARA	1999	National Coordinator(CBR)	Ministry of Women Empowerment & Social Welfare	障害者のためのCBRプログラム(訓練担当)。ジョブブレスメント。	記載なし。	フォローアッププログラムで学び、経験を積むことで現在のCBRプログラムの助けとなり、現行のプログラムを進展させることができる。	知的障害者のための仕事をしたい。
167	Sri Lanka	Mr. Gamini WEERAWICKRAMA	1999	Regional Assistant Director	Rubber Development Department	生活保護の支給。9品目の供与(車椅子・補聴器・トライクル等)。職業訓練。リハビリテーション補助。シェルター(家)の提供。	以前は障害者関連の職務であったが、現在は配置換えにより、別の分野担当になってしまった。	記載なし。	記載なし。
197	Sri Lanka	Mr. Thota Hewa Rukmal SILVA	2002	Vocational Instructor	Rehabilitation Centre for the Mentally Retarded	障害者に封筒作りの指導をした。	プログラムを開発するための資金。コンピューターなどの備品とインターネットのできる設備。	記載なし。	新しい障害者の訓練コースに参加したい。たくさんの計画があるが、資金と設備不足で実現できない。
27	Thailand	Ms. Jureeratana PONGPAEW	1985	Instructor	Thammasat University, Libraries,	リハビリテーション法のキャンペーン。タイ障害者のニーズと課題に関しての社会意識向上のためのキャンペーン。タイ障害者の人権問題キャンペーン。権利の下での障害者教育。	記載なし。	記載なし。	障害をもつ女性のための活動。障害者の介助をするボランティアの養成。障害者の介助プログラム。
116	Thailand	Ms. Songkran POOPUKK	1994	Social Worker Level 8	Raj-Prasha Samazai Institute	ハンセン氏病患者の社会福祉制度及び社会リハビリテーションの開発。ハンセン氏病患者のCBRモデルの参加型実地研究の実施。	記載なし。	2003年にALERT Ethiopiaが実施したCBRコースに参加した。ハンセン氏病患者や障害者に関わる職業の従事者を対象とした同様のコースをJICAでも行って欲しい。	同僚と共に、多くの地域でCBRプログラムを実施したいと考えている。
138	Thailand	Ms. Sirikul BHOTIMAS	1996	Physical Therapist (Government Officer)	Somdet Chaopraya Institute of Psychiatry	日本で見学した知識を基に病院で精神障害者のリハビリテーションの実施。健康増進・予防、職業サポートなど。	精神障害者の理学療法に関するトレーニング。	精神障害者(特に高齢者)に対する理学療法のサービスやプログラムに関する知識を得たい。	今年の10月に精神障害のある高齢女性のself-mobility developmentの集団療法のプロジェクトを立ち上げる。
157	Thailand	Ms. Somsri KITTIPONGPISAL	1998	Social Worker	The Independent Rehabilitation Center	先天的な情緒障害者のための社会支援プログラム。社会リハビリテーション分野の研修を実施。	記載なし。	記載なし。	記載なし。
168	Thailand	Ms. Nawarat BOONPIAM	1999	Vocational Training Officer	Industrial Rehabilitation Center, Social Security Office	自営のための訓練プログラム。	記載なし。	記載なし。	IRCを総合的なリハビリテーションセンターにグレードアップさせたい。

ID	国名	氏名	年度	職業	団体	研修で得た知識の役立て方	現在のニーズ	フォローアップへの期待	将来計画
204	Palestine	Mr. Imad Abdallah MHANNA	2003	Social Worker	Rehabilitation Center for Persons with Disabilities	新設センターをイスラエルに破壊され、何も始められない状況。	記載なし。	将来計画のための資金供与。再度同じ研修員で知的・精神障害の研修をして欲しい。	現センターにワークショップを併設したい。精神障害のプログラムを組みたい。
10	Philippines	Ms. Marlu Fenoy EVANGELISTA	1984	Planning Officer IV (Assistant Chief), Programs Management Division	National Council for the Welfare of Disabled Persons (NCWDP)	公共交通施設に対するアクセシビリティ(例: リフト付きバス)、コミュニケーション(例: 聴覚障害者のための電話、テレビ放送における手話挿入)	記載なし。	年齢制限のない障害者分野のプロジェクト立案、モニタリング、評価を学ぶ訓練の開催。関係の障害者関連の会議、セミナー、フォーラムの開催。資金面、技術面におけるプロジェクト支援、特に障害者雇用、自営関係のプロジェクト。	NCWDPの技術面のスタッフとして、BMFの目標に掲げられている7つの領域をステークホルダーがどの程度達成しているかをモニタリングする任務に就いている。年間達成報告は中期カントリーレポートにまとめられる。2005年にフィリピンで開催されるパラゲームの実行委員会の委員にも就任している。
25	Philippines	Ms. Dolores Deang SOTERIO	1985	Planning Officer/Chief of Division	National Council for the Welfare of Disabled Persons (NCWDP)	障害者福祉協議会はフィリピン政府の政策立案、調整、モニタリング機関である。企画担当官、事業マネージメント部の長として、研修で得た専門技術をスタッフや協会の会員団体に伝えている。担当部署は政策や事業を政府の関係機関、NGO、障害者団体で構成されている理事会に推奨する役割を担っているが、これも研修で得た知識のお陰である。	1985年に研修に参加してから随分発展していると思われる、ICTや最近の日本の障害者施策や事業についての情報。その他の障害者の動向。	日本の最新の障害者政策・プログラムについての情報。	記載なし。
186	Philippines	Mr. Joselito Evangelista DE LEON	2001	Program Training Assistant	Uni. of the Philippines Manila College of Allied Medical Professions Community Based Rehabilitation(CBR)Program	ダウン症、知的障害者に対する職業訓練前の準備訓練。脳卒中患者のための社会技能訓練。障害者のいる家族のための生計を立てるための訓練。	職業リハプロジェクトを維持するための基金、資金提供先。	障害者職業リハビリテーションの最近の傾向ならびに新制度。他国において職業リハビリテーションで成功したプロジェクト例。	社会福祉の修士号を取得し、アジアの開発途上国の障害者の生活と機会についての調査をする。
195	Philippines	Mr. Sonny Jim Delia SALI	2002	Occupational Therapist	Katipunan Ng Maykapansanan Sa Pilipinas (KAMPI)	パンガシナンに障害児刺激療法活動センター。(STAC障害児のリハビリセンター)の設立。センターのサテライト設置。	リハビリテーションや作業所に関する最新情報。リハスタッフまたは専門家を派遣し将来計画の実現支援。	過去の研修員の将来計画についての情報。	障害児のための養護学校設立
86	Sri Lanka	Ms. Ariyaratna PIYASEELI	1991	Community Counsellor(政府役人を退職後)	Community Health Foundation-Sri Lanka	障害者のためのCBRのコーディネート。	コミュニティヘルス資金。	記載なし。	知的障害児のリハビリテーションを資金供与してもらいたい。
146	Sri Lanka	Mr. Wijesinghe MAHINDA RATNA	1997	Superintendent	Ministry of Social Service	知的障害児センターの開設。障害者リハビリテーションのボランティア訓練。	記載なし。	過去の研修員と知識経験を共有。障害者の最新のテクノロジーを入手。障害者分野の制度・法律を知る。過去の研修員の所属団体から協力を得る。一同に会し、話し合い他国の障害者のスキルを得る。	重度知的障害者(少女)のためのセンターを設立し、同時に障害者雇用のための農場も開設する。国際ボランティアを募集してセンターの手助けをしてもらう。

リハビリテーション専門家コース/アンケート調査記述回答まとめ(2004年10月29日現在)

資料5

ID	国名	氏名	年度	職業	団体	研修で得た知識の役立て方	現在のニーズ	フォローアップへの期待	将来計画
187	Thailand	Ms. Arunee LIMMANEE	2001	Lecturer	Ratchasuda College, Mahidol University	大学で障害者職業リハビリテーションの専門家対象のセミナーを2つ開講している。住友基金の支援を受け、タイと日本の職業リハビリテーションの比較研究をした。	記載なし。	過去の研修員に会い、夫々のプロジェクトについて学び、将来的に協力体制が取れるようにしたい。数名の研修員とは連絡を取っている。JICA、リハ協の最新のトレーニング情報を知りたい。研修の時の講師やスタッフまた関係者と再会し、将来的な協力関係について話したい。	タイ障害者協会の中に位置する女性部門の会員として、タイの障害者の教育リハビリテーションに参加し、女性障害者協会の設立の可能性を図ったり、2004年10月に北京で開催される世界女性会議へのタイの女性障害者の参加支援をしている。
198	Thailand	Ms. Sainatee PRATANAPHON	2002	Government officer	Physiotherapy Department, Faculty of Associated Medical Sciences, Chiangmai University	障害者に対する意識を高めるプロジェクト。知的障害者の職業訓練プログラム。	プロジェクトへのJICAの技術協力と資金援助。	記載なし。	知的障害者を理解してもらうためのセミナーの開催。コミュニティの知的障害者へ態度を変える。タイで初めての知的障害者職業訓練センター設立のためのボランティアのリクルート。
205	Turkey	Dr. Arzu OZDINCER	2003	Associate Professor School of Physical Therapy and Rehabilitation	Istanbul University	保養施設のコーディネーター。	記載なし。	記載なし。	現在、国際ライオンズクラブと共同でプロジェクトを進めている。内容は、「都市に住む青年に雇用機会を与える。障害のある青年の雇用のためのキャパシティビルディング。」
178	Vanuatu	Mr. Arthur SIMRAI	2000	Field Worker	Vanuatu Society For Disabled People	園芸プロジェクトの運営。	記載なし。	JICAからコンピューターの寄贈があれば、タイでの仕事を報告でき、他の研修員とも情報の共有ができる。	現在のプロジェクトをバヌアツ全土に広げたい。可能であればJICAにそのための資金援助をして欲しい。
79	Western Samoa	Ms. Epenesa POUESI	1990	PT	Ma'a Ole Fesoasoani Physio Clinic	意識向上のためのセミナー。国際障害者の日のセレモニー。	理学療法士や形成外科、義肢装具製作専門家の数が足りない。	3年から5年に1度はフォローアップをして研修員が研修で得た知識を生かしているか追跡調査をするべきだ。途上国における障害者福祉サービスのニーズは夫々違うが、フォローアッププログラムでそれらのニーズを支援できると思う。過去の研修員がフォローアッププログラムで再会し、夫々の進展状況を紹介し合う。	コミュニティの人たちに障害者問題に関心を持ってもらう。保健師にコミュニティの障害者のニーズに応じてもらう。障害に関心を持ちつづけてもらい、無関心なコミュニティと関わっていく。コミュニティにおける理学療法士の数を増やす。訓練を受けた障害者自身(例えば車椅子製作)が障害者を助けていくようにするのが夢である。
206	Zambia	Mr. Katongo DANIEL	2003	Project Director	Zecotramo Foundation	バリアフリー推進プロジェクト。	JICA とリハ協からのプロジェクト支援。	リハビリテーション、職業訓練、作業所経営などの研修のロールモデルを作る。	障害者にバリアフリーな建物を紹介したい。障害者がアクセスできる社会にするため、障害者の親に障害者の権利の確立に努めてもらう。

ID	国名	氏名	年度	職業	団体	研修で得た知識の役立て方	現在のニーズ	フォローアップへの期待	将来計画
276	Bangladesh	Mr. Mohamaad Adbur RAHIM (肢体)	1994	Technical Store keeper	Employment Rehabilitation Centre for the Physically Handicapped (ERPH)	95年から現在まで社会のあらゆる障害者のための建造物・雇用・教育・コミュニケーションアクセシビリティの活動。	記載なし。	草の根レベルの障害者が機会に恵まれていないこと、また活動を実行に移す際の問題点などがフォローアップによって明らかになる。将来計画のための情報収集ができる。JICAの支援を受け、幾つかの活動を実現でき、過去の研修員との情報交換ができる。	国連の障害者の10年を浸透させ草の根レベルの障害者が恩恵を受けられるようにしたい。障害者自身が社会に貢献できるようにモチベーションづける。国内の障害者問題の調査ネットワークを開発する。
315	Bangladesh	Ms. Bilkis Begum SHOPNA (肢体)	1998	Project officer	National Forum of Organizations Working with the Disabled (NFOWD)	98年から現在までソーシャルワーカーの育成	プログラムの進展のためワンランク上のコースに参加希望。	更なる発展のために他のコースに参加する。またフォローは継続して欲しい。	障害分野の最新情報入手し、活動に役立てたい。障害をもつ子供や女性の発展のために努めたい。
357	Bolivia	Ms. Alejandra Rivera EID (肢体)	2002	Psicologist	FAPIZ(Father Ignacio Zallez Fundation)	重複障害児プログラム。重複障害・視覚障害をもつ青年への職業リハビリテーション。	視覚障害者も能力があると社会に認識させるプログラムが必要。視覚障害者のためのコンピューター教育。一般の障害をもたない人の教育プログラム。家庭が障害者を受け入れるためのプログラム。	記載なし。	アルコール依存症や家庭内暴力の家庭に対処しなければならない。障害をもつ若者に職業訓練を提供する。
350	Chile	Ms. Dixie Juanita OLGUIN (肢体)	2001	Teacher and Coordinator of the English Department. Public Relationships	Colegio Aleman de San Felipe	遠隔地における障害者用の特別車両。様々なスポーツができる施設(日本大使館、JICAから支援を受けた)。	記載なし。	今回のフォローアップに感謝。時に連絡を取り合うことは必要。	現在は障害者関係の仕事に就いていない。障害者の仕事をしていて、失望した。フルブライトで渡米したが、父親が急死し、帰国した。家計を助けるため、障害者関連の仕事には戻れない。
366	Chile	Mr. Carlos Kaiser MANSILLA (肢体)	2003	President	District Councils of Persons with Disabilities Metropolitan Region (San Tiago) Coordination Board	障害者地区協議会を創設。ILセンタープロジェクト。	記載なし。	連絡を取り合い、最新の情報を入手する。日本、チリ、ラテンアメリカをリンクしたネットワークを作る。	04年8月にある選挙で身体障害者の代表に選出されたい。現在は政府や民間団体の障害者プログラムに助言したり支援したりしている。これからは障害者分野に限らず他の分野の勉強もして障害者のQOLを向上させる助けをしたい。ラテンアメリカの10年を始める助けをしたい。国際セミナーのスピーカーになり、障害者を励ましたい。自分にはその能力がある。この分野の研修コースを受け、知識を高めたい。将来、国際機関の障害者分野で働きたい。日本とチリの関係強化のために力を尽くしたい。
317	China	Mr. ZHANG Chun-he (肢体)	1998	記載なし。	Anhui Province Disabled Persons' Federation	地方政府等の援助を受け、あらゆる障害者のための協会を設立した。他の障害者関係団体とも協力し合っている。障害者雇用と社会教育のための規約や規定策定に成功。	記載なし。	Web Siteを立ち上げて情報を流して欲しい。例えば、障害者関連の法律と規約、世界の障害者の状況、障害者施策、最新の障害者のための建造物。将来的にはインターネットで遠隔教育ができるように欲しい。	障害者のためのオンライン・ネットワークサービスを立ち上げる。障害者関連のデータベースを作成する。中国障害者連合会との間にネットワークを築く。市町村間の情報ネットワークを築く。コンピューター技術の普及。
340	China	Mr. YOU Liang (肢体)	2000	Vice President & Chief Operating Officer	China Disabled People's Performing Art Troupe	チャリティープロジェクトを実行していく上で日本で学んだアクセシビリティを考慮した。日本の活動の進行方法を取り入れた。	記載なし。	問題に直面した今、共に学んだ研修員や講師の人たちに再会し、その後経験したことなどの情報交換をしたい。また、再度研修を受けて現在直面している問題の解決法を学びたい。	中国障害者芸術団の演目を世界に紹介したい。数年後には、中国障害者連合会に戻るのでは他国の障害者関連の知識も身につけたい。

障害者リーダーコース/アンケート調査記述回答まとめ(2004年10月29日現在)

資料5

ID	国名	氏名	年度	職業	団体	研修で得た知識の役立て方	現在のニーズ	フォローアップへの期待	将来計画
327	Egypt	Mr. Diaa El Morsi SHAHIN (肢体)	1999	Director	Redsen Society for Social Rehabilitation of Disabled	障害児保育(1998)の心理面における対策。総合リハビリテーションセンターにおける(2002)障害者雇用。	障害者リハビリテーションへの市民参加。	新しい障害者リハビリテーションプログラム。日本の障害者団体訪問。	障害者に対する悪い態度を変える。家族支援を通してリハビリテーション団体を支援する。日本での経験を生かす。
341	Eritrea	Mr. Tesfay Mesfin G. EZGHIHER (視覚)	2000	Teacher	Abraha Bahta School for the Blind	エリトリア盲人協会のキャパシティビルディング(会員登録・企画・ネットワーク作り・アドボカシー)。	記載なし。	JICAと過去の研修員の効果的なネットワーク。	障害者分野の計画実現のために努力する。そのためにもJICAのアドバイスが必要。
328	Fiji	Mr. Setareki Seru MACANAWAI (視覚)	1999	School Principal	Fiji School for the Blind	フィジーの障害者団体のリーダーとして活動。人権・適切な処遇・機会均等・完全参加を主張。フィジー障害者協会の会員のエンパワー。国内ならびにアジア大洋州の他団体とのネットワーク及び協力体制。	記載なし。	アドボカシー・折衝・マネージメント・団体の発展方法。ネットワーク・アクセシビリティなどの分野の知識と技能に焦点を当ててフォローアッププログラムを組んで欲しい。	フィジー、アジア大洋州の均等な処遇・機会、人権擁護、障害者のQOLの向上を主張していくという現在の任務を継続していく。障害者や排斥された人々を擁護するために政界に出たい。
358	Fiji	Mr. Joseva VEREVOU (Joe) (肢体)	2002	Teacher	Suva Special School	障害者適応住宅。生活保護。小規模ビジネス支援。	活動の拠点となる事務所の設立。草の根レベルの生計プロジェクト。学校から拒絶された障害児のための学校建設。	現在進行中のプロジェクトへの資金援助。	事務所を設け、障害児の学校を建設し、障害者に教育と雇用の機会を与える。その後、生計プロジェクトを立ち上げる。
368	Ghana	Mr. Samuel Kwesi ASARE (聴覚)	2003	Assistant Librarian	Ghana Education Service(Mampong Akwapim Secondary/Technical School for the Deaf)	JICAのコースについて新聞に寄稿。聴覚障害者の職業訓練をコーディネート。	記載なし。	役立つ最新情報の提供。過去の研修員のネットワーク作り。過去の研修員が集会を開き、団体を設立する。	JFD(ろうあ連盟)やJSRPDと強力なネットワークを作る。
329	Guyana	Ms. Karen A.E. HALL (肢体)	1999	Student	Doing research in conjunction with National Commission on Disability	コミュニティ・トレーニングのうちのダンス・ウェアネスの知識を研修中に得て、それを活用している。車椅子スポーツプログラム。	記載なし。	フォローアップ事業で適応できるテクノロジーを紹介してもらい、障害者のキャリアの構築に役立てたい。	施策策定に携わり、南アメリカの障害者関係の調査を施行して、施策策定を左右する要因を探りたい。障害をもつ人の能力に合わせた雇用機会を探る。
330	Honduras	Ms. Dayana Gisell MARTINEZ (視覚)	1999	Foreign Language Teacher (Executive Director)	Asociacion Nacional de Discapacitados de Honduras	ホンデュラス障害者協会設立。ホンデュラス障害者連盟創設。	記載なし。	過去の研修員と経験を共有。世界の障害者関連の会議やセミナーへの参加。障害者プロジェクトへの資金供与。	社会の意識を高めるためのキャンペーン。障害者の雇用機会を生み出すプロジェクト。アクセシビリティを良くする。
352	Honduras	Mr. Marco LOPEZ (視覚)	2001	President	National Blind Sports Federation	視覚障害のある人のスポーツ。10ヶ月のコーディネーター養成プロジェクト。視覚障害者がスポーツをする際のニーズの紹介。	記載なし。	記載なし。	記載なし。

ID	国名	氏名	年度	職業	団体	研修で得た知識の役立て方	現在のニーズ	フォローアップへの期待	将来計画
288	Hong Kong	Mr. Sai Cheong LEUNG (肢体)	1995	Senior Social welfare officer	Social Welfare Department	医療ソーシャルワーカーへの上級訓練。リハビリテーション分野の職員研修。CBRへの新制度の導入。	記載なし。	過去の研修員のためにWebを立ち上げて欲しい。研修の復活コースを設けて欲しい。	香港のリハビリテーションの施策に携わり続ける。
246	India	Mr. Rai Singh CHAUHAN (視覚)	1990	Senior Lecturer in Education	National Institute for the Visually Handicapped	視覚障害のある女性のためのセミナー・ワークショップの開催。	英語版の最新情報。支援団体の名前。	JICAプログラムの最新情報を得る。	教育を受けた視覚障害者のための団体を設立し、権利と資力に対する意識の確立を図る。特に少女、女性に対して語る。また、視覚障害のある女性のエンパワメント。
289	India	Mr. Javed ABIDI (肢体)	1995	Executive Director	National Centre for Promotion of Employment	97年にDPIの地域集会とインドでリーダーコースを開催。国立雇用促進センターの会長就任。DPIのインド代表。	記載なし。	過去の研修員のためのニュースレターかフォーラムが開けたら良いと思う。最新の住所録があれば良い。	アジア・大洋州のDPIで積極的に活動する。
233	Indonesia	Ms. Kasih ANI (肢体)	1989	Chairperson	Agencies for the Empowerment of Persons with Disabilities	障害者関連のワークショップ・シンポジウムの開催。「就労障害者のためのエンパワメント」を目的とする協会を設立。	障害者問題の世界的動向の情報。予算操作を含む効果的な職業配置について学びたい。3百万人の失業障害者がいるにも拘わらず、専門的な職業斡旋サービスがない。データの収集ができていない。	帰国研修員のプロジェクト紹介。	職業斡旋サービスの開発計画のワークショップ開催。全ての州においてメディアを使つてのアドボカシー。法律や規則によるアドボカシー。データベース化。職業斡旋事業担当官に対する訓練。1%の法定雇用率についてのセミナー。障害のある就労者のための交通アシスト。障害者職業訓練とオン・ザ・ジョブ訓練。重度障害者のための授産施設。補助具の財政援助。障害のある勤労者への昇進材料。
309	Indonesia	Mr. Agus DIONO (視覚)	1997	①Head of Standardization, ②Director, ③Secretary General, ④Chairman	①Directorate for Rehabilitation and Social Service of People with Disabilities Ministry of Social Affairs, ②Indonesia Louis Braille Foundation, ③Indonesia Association of PWD's, ④Indonesia Association of the Ex-JICA Training Course Participants	98年から障害者の社会リハビリテーションサービス(施策とプログラム作成)に携わっている。	記載なし。	現在インドネシアでJICA研修参加者を集めた協会を設立し、その代表に就任したので、過去の参加者の強力なネットワークを希望する。これからのプロジェクトやプログラムへの支援を希望する。RANAPのメンバーとしてJSRPDからの情報提供とコンタクトを希望する。	04年に障害者親の会を設立する。35歳以下のリーダーシップ研修を企画している。政府・非政府が関連している障害者社会福祉向上チームを通して障害者の生活全般に関連する施策やプログラムを作成する。
331	Indonesia	Ms. Pamikatsih NUGROHO (肢体)	1999	Director	InterAct Foundation(Self Help Group for Persons with Disability)	ピアカウンセリング。アクセシビリティキャンペーン。池住流リーダーシップ研修(年2回)。	プログラムが資金不足のため目的が達成できない。交通アクセスが悪い。	資金援助を受ける方法。	エレクトロニック・ディスプレイ・アクセス(EDA)を立ち上げる。エレクトロニック図書館。ディスプレイエレクトロニクス訓練センター。ワールドワイド・ディスプレイ・アクセス。
342	Indonesia	Ms. Sinta MARIA (肢体)	2000	Coordinator Business Group&Manpower Dept., Human Resource.	Indonesian Association of Woman with Disabilities	農業都市開発(訓練指導)。国外・国内の障害者関連法律の本の収集。	ワークショップ。	ワークショップを開くための資金援助。	記載なし。
359	Indonesia	Ms. Rina PRASARANI (視覚)	2002	Secretary	Indonesian Association of Woman with Disabilities	アクセシビリティ。特に選挙の際の障害者のアクセス。視覚障害をもつ女性の就労。障害者ための作業所(Workshop center)。	記載なし。	研修のフォローということで、プログラム実現のための情報提供。インドネシアにある資金援助団体を紹介して欲しい。	他の帰国研修員と共に障害者の作業所(Workshop center)を発展させたい。

障害者リーダーコース/アンケート調査記述回答まとめ(2004年10月29日現在)

資料5

ID	国名	氏名	年度	職業	団体	研修で得た知識の役立て方	現在のニーズ	フォローアップへの期待	将来計画
226	Malaysia	Mr. Ashairi HAJI SULAIMAN (肢体)	1988	Clerk (till 14/11/2005, and going to retire)	Northport (Malaysia) BHD	NGOでマンパワーが足りず何も実現できていない。	パーソナルコンピューターとプリンター1台ずつ。120人の利用者のため施設建設費用。	JICAからの情報。将来、再度研修員に会える機会を作って欲しい。	封筒印刷の作業所の建設。
252	Malaysia	Mr. Mohammad Sazali SHAARI (聴覚)	1991	Executive Director	Malaysian Federation of the Deaf	JFDの例を真似て草の根開発プログラム。JFDのような団体の設立(代表に就任)。マレーシア手話プロジェクト(ODA)。手話通訳研修(ODA)。	記載なし。	記載なし。	JICAの支援を受け、JFDとWFDの指導の下、アジアの手話訓練コースを立ち上げる。
259	Malaysia	Mr. Wong Yoon LOONG (視覚)	1992	Principal	Gurney Training Centre, Malaysian Association for the Blind	日本点字図書館から寄贈されたパソコンを使用して、13カ国の120人の研修員にパソコン点字の研修をした。	びわこミレニアムフレームワーク(BMF)や権利条約などの最新の情報。	同じ分野で成功した過去の研修員を訪問したい。	国内・国際レベルの障害者活動に活発に関わり、障害者の生活の向上につなげたい。
332	Malaysia	Mr. Murugeswaran A/L VEERASAMY (肢体)	1999	President	DAMAI Disabled Persons Association SEL & KL Malaysia	資金調達(バザー)。	記載なし。	情報の共有。世界的な障害者のQOLの向上。過去の研修員とJICA、JSRPDとの関係の維持。	障害者に教育を受けさせる。障害者のリーダーシップ研修の回数を増やす。ディビジョンミーティングできる代表者を持つ。
369	Malaysia	Ms. Liu CHOON LIAN (Grace) (肢体)	2003	Public Relation	Persatuan Kristian Shuang Fu	時間が無かった。	記載なし。	ICQを設置して過去の研修員の連携を可能にする。最新の日本の障害者福祉事業の情報提供。研修員が意見交換でき学習できるプログラムの提供。	記載なし。
344	Myanmar	Ms. Nyunt Nyunt WIN (肢体)	2000	Instructor	Vocational Training School for Adult Disabled	障害者スポーツ大会に参加(FESPIC/PARA GAMES)。	記載なし。	最新のテクノロジー、日本の障害者制度・法律についての情報。研修・セミナーに関する情報。過去の研修員との意見交換。	授産施設の設立のためにプロジェクトプロポーザルを出す。障害者スポーツ訓練のコーチをする。
303	Nepal	Ms. Sushila PAUDEL (肢体)	1996	President	Nepal Disabled Women Society	東部ならびに西部地域においてリーダーシップトレーニングを実施。15歳以下の障害児対象のリハビリテーションプログラム。コンピューターや事務処理、秘書業務の訓練を提供。	地方の草の根レベルの女性グループの人たちの雇用の機会。ネパール女性障害者協会の設立。	記載なし。	障害のある女性のために国レベルの会議を開催したい。障害のある女性が専門的訓練を受けられる訓練施設を設立したい。
360	Nepal	Mr. Rukmagat NYAUPANE (肢体)	2002	President	Nepal Society of the Disabled (NSD)	障害者のためのアドボカシー。障害者団体間のネットワーク作り。施設の発展のために理事会の刷新等。	リーダーを養成する。バリアフリーな環境の推進。キャパシティビルディングトレーニング。意識向上プログラム。	記載なし。	ネパールでのリーダーシップトレーニング。障害者のキャパシティビルディング。ネパールでのバリアフリー運動。障害者の政策策定のためのロビーイング。障害者の人権のアドボカシー。
311	Pakistan	Mr. Ahmad Nawaz MALIK (肢体)	1997	Prosthetic, orthotic Technician/Orthopaedic Technician	Nishtar Hospital	義肢装具の製作方法伝授と製作。社会福祉フォーラム(名誉監督)。	記載なし。	過去の研修員と夫々のプロジェクトについて経験を共有し、費用をかせずにパキスタンでできるリハビリテーションについて話し合いたい。リハビリテーション関連のセミナーやワークショップに参加したい。後援の指導方法。	GOとNGOの協力により身体障害児のための美術工芸リハビリテーションセンターを建設したい。1つの施設でリハビリテーションと職業訓練を受けられるようにしたい。

障害者リーダーコース/アンケート調査記述回答まとめ(2004年10月29日現在)

資料5

ID	国名	氏名	年度	職業	団体	研修で得た知識の役立て方	現在のニーズ	フォローアップへの期待	将来計画
361	Pakistan	Mr. Muhammad Sheikh ATIF (肢体)	2002	President(ST EP), Secretary General(DPI Pakistan)	Students Talent Exchange Program, Affiliated with National Training Centre for Disabled Persons NTCDP, Al-Farabi, Special Education Complex	2日間のトレーニングセミナーの開催。	記載なし。	過去の参加者や講師、また見学の先に再会することができたら、夫々のプロジェクトに役立つと思う。フォローは研修員のプロジェクトのニーズに添って行われるべき。	障害者の情報コミュニケーションセンターで情報のインフラの開発のための仕事をし、国レベル、また、国際的な障害者の研修とネットワーク作りに努めている。
371	Palestine	Mr. Emad A.R.KHALED (肢体)	2003	Social Worker	Rehabilitation Center for Persons with Disabilities	新設センターをイスラエルに破壊され、何も始められない状況。	将来計画のための資金。	日本での再度のリハビリテーション分野の研修。	障害者のための美術工芸訓練のためのセンターの設立(破壊されたので)。
372	Palestine	Ms. Sabah Ata AL-HATO (肢体)	2003	Social Worker	Rehabilitation Center for Persons with Disabilities	新設センターをイスラエルに破壊され、何も始められない状況。	車椅子の製作を始めようと建設した工場が爆破されたので、再度建設する必要がある。	記載なし。	政治的な問題が解決され、1日も早く障害者の助けとなる仕事をしたい。現在は最悪の状況。
333	Peru	Ms. Esperanza VILLAFUERTE (視覚)	1999	Manager Director	Peruvian National Organization of the blind (ONCIP)	組織改革(日本の障害者運動を真似て)。ペルー障害者選挙制度勉強会。ペルー盲人連合会の10年計画作成'03~12)。2年計画のプロジェクトコーディネイト。	プロジェクトのための技術協力と資金援助。	最新情報の提供。	障害者団体で参選のためのネットワーク作り情報アクセスのための印刷所建設のための資金供与団体を探している。
354	Peru	Ms. Beatriz Patricia QUISPE (視覚)	2001	President	Association of Technology and disability	視覚障害者のためのサイバーカフェのコーディネイト	記載なし。	スクリーンリーダーのためのホームページ。最新技術についての情報。	遠隔地の障害者と共に活動する。
362	Peru	Ms. Angela Giovana MARIN (視覚)	2002	Teacher and Translator	Cercil, Rehabilitation Center of the Blind	視覚障害者のためのサイバーカフェのコーディネイト。	研修の際の講師にプロジェクトの相談をしたい。	研修を共に受けた仲間に連絡を取りたい。	記載なし。
235	Philippines	Ms. Adela Avila KONO (肢体)	1989	①President ②Company	①Jesus S. Avila Foundation Inc. ②Jesa Management Corp	アクセシビリティモニタリング。障害者用具の作成。	記載なし。	研修後も目標を持ち実行している過去の研修員のリストを作成して欲しい。JICAに過去の研修員のプロジェクトを支援して欲しい。活動している過去の研修員はJICAにプロジェクトの進行状況を年1回報告する	今後も現在の団体で活動を続ける。'07年までに自分の町の学校・モールなどをアクセシブルにする。国内・外にネットワークを作り、フィリピン全土が完全にアクセシブルになるようにする。
249	Philippines	Ms. Jocelyn Cevallos GARCIA (肢体)	1990	Chief Executive Officer	Tahanang Walang Hagdanan Inc.,	生計プロジェクト。CBRプログラム。現団体に於いて運営・管理部門を担当。	記載なし。	今回のフォローアッププログラムは自分の知識だけでなく、団体の事業のプログラムを高める助けとなる。	CBRプログラムの拡張。障害者の生計プロジェクトの発展。
263	Philippines	Mr. Mariano Hermosissima. ABAYGAR (肢体)	1992	Project Manager	Assn. Of Disabled Person-Iloilo	自助グループの強化。障害児のリハビリテーションセンターのサテライトの創設。障害者共同組合の生産性センターのマネージャー。	リハビリテーションサテライト(CBR)への技術的、財政的支援。ビサヤ地区において、リーダーとして潜在的な能力を持つ人に対してトレーニングの機会を与えて欲しい。	記載なし。	遠隔地に住む障害者に対してのCBRプログラムを進展させる。全ての人がアクセスできるよう主張する。草の根レベルの自助グループの強化。

障害者リーダーコース/アンケート調査記述回答まとめ(2004年10月29日現在)

資料5

ID	国名	氏名	年度	職業	団体	研修で得た知識の役立て方	現在のニーズ	フォローアップへの期待	将来計画
322	Philippines	Ms. MA. Rowena Lentejas UROT (肢体)	1998	Private Lawyer	Calbayog Federations of Persons with Disability	研修で得た知識を他のメンバーに伝えた。	障害別の実態調査。	記載なし。	障害者が生計を立てられるようプログラムを組む。
345	Philippines	Ms. Virginia Escobedo MONTILLA (肢体)	2000	Head, Social Service Department	Tahanang Walang Hagdanan Inc.,	障害者センター設立のために地方政府と協議。プロジェクトプロポーザルを作成し、センターのシャトルバスを得た。	記載なし。	共に研修を受けた仲間の連絡先を覚えて欲しい。	センターの設立。アクセシビリティ法と雇用均等法の制定に努める。
363	Philippines	Ms. Maria Teresa Bayaya UDAUNDO (肢体)	2002	President	Gagayan Provincial Federation of Women with Disabilities	地方の障害のある女性のための雇用プロジェクトを立ち上げた。	記載なし。	記載なし。	記載なし。
373	Philippines	Ms. Mylene Jalac FELIX (Mye) (肢体)	2003	Community Service Program Officer	Tahanang Walang Hagdanan Inc.,	コミュニティアウェアネスセミナーの開催。CBRスタディツアー。	生活保護を受ける必要がある障害者が多くいて、TWHIだけでは全員を収容することが出来ないで、プログラムを支援してくれる支援団体。	JICA/JSRPDの最新情報。フィリピンの障害者状況をフォローアップして欲しい。	一人でも多くの障害者が生産性のある人になるよう奨励する。CBRのキャンペーンを継続し、障害者の助けとなる。
237	Singapore	Mr. Eugene Soh YEW LIN (肢体)	1989	記載なし。	記載なし。	障害者福祉協会のリーダーシッププログラム。	記載なし。	過去の研修員同士で連絡を取り合う。	記載なし。
264	Singapore	Mr. Ben Chermg Yiw ONG (視覚)	1992	Brailist	Singapore Association of the Visually Handicapped	アクセシビリティ・プロジェクト(1992～現在)。日本で得た知識により他の障害者のニーズも理解できた。	点字関連の製品、特に数学や科学などの難しい科目に関連したもの。	記載なし。	自分の能力とリソースを使って視覚障害者コミュニティに貢献したい。
355	South Africa	Mr. Julius Mbhikwa MAXAJWE (聴覚)	2001	Provincial Development Officer	Deaf Federation of Mpumalanga	聴覚障害者自立プログラム。	聴覚障害者自立プログラムの継続資金。	資金援助。	聴覚障害者自立プログラムを国のプロジェクトにする。
239	Sri Lanka	Mr. Raja Senadheera MARASINGHE (肢体)	1989	Chairperson	Central Council of Disabled Persons	環境開発プログラム。政府と共同で住宅プログラム。障害者フィルムフェスティバル。3週間のワークショップ(低価格の車椅子技術)。	記載なし。	JICA研修後に優秀なリーダーになった人を認定評価する。素晴らしい活動をしたリーダーを選抜してより高度な研修を受講してもらう制度。優秀なリーダーの強力なネットワークを作る。新しいJICA訓練プログラムのための方法論を優秀なリーダーたちで作成する。	ネットワークを作り、障害者団体間で情報を共有する。中央財政基金を設立し、ネットワークで選出された障害者団体のアクションプランに資金援助する。世界の障害分野の最新情報を提供するための情報センターを設置する。ジョブプレースメントのための障害者のデータベースを作る。戦闘地域(北・東スリランカ)にもサービスを拡張し、戦争で障害者になった人もカバーする。
256	Sri Lanka	Mr. Walimuni Asoka Mendis ABEYSEKERA (聴覚)	1991	Hony Secretary	Sri Lanka National Organization of the Deaf	日本で手話のテレビニュースを見てスリランカ国営テレビでも始めた。日本のろう学校の教授方法を真似てスリランカでも始めた。手話を一般の人やプライベートセクターで教える。	最新手話表現法の調査とオーディオヒアリングテスト方法を知りたい。	日本で日本語と日本語の手話を学び、ろうあ者の教育を見学し、青年に対するコンピューター指導方法を学びたい。	聴覚障害のある青年を教育し社会で一般市民と同じように生活できるようにする。手話を一般の人に教え、ろう社会との掛け橋となってもらい。スポーツの振興。手話通訳派遣。
306	Sri Lanka	Mr. Dissanayake Mudiyansele PREMADASA (肢体)	1990	Hony President	Sri Lanka Foundation of Rehabilitation of the Disabled	99年に1台のコンピューターで障害者5人に訓練を開始したが、現在はそれが設備の整ったセンターになった。村落レベルにおけるリハビリテーション。	記載なし。	記載なし。	障害のある少女たちの雇用問題の早急解決。衣服を縫製し英国に輸出する工業界で雇用してもらう。

ID	国名	氏名	年度	職業	団体	研修で得た知識の役立て方	現在のニーズ	フォローアップへの期待	将来計画
313	Sri Lanka	Ms. Narayana Gedara KAMALAWATHI (肢体)	1997	President/Co-coordinator	Association of women with disabilities	障害のある女性を組織化する。障害のある青年に対しての職業訓練。障害者参加による環境プログラムをコーディネート。家畜飼育と家庭園芸プロジェクト。戦争負傷者のためのインカムジェネレーションプログラム。難民キャンプの障害者のためのインカムジェネレーションプログラム。難民キャンプの家族のためのエンパワー・カウンセリング・技能開発プログラム。	障害者のための施設。	リーダーのためのエンパワー・カウンセリング・トレーニングプログラムを設けて欲しい。	障害者のための法律の制定を發起する。戦闘地域における障害者教育プログラム。障害者の生計プログラム。政府・非政府組織へ就労のための職業訓練。カウンセリングを通して障害者が権利を獲得するための支援。
364	Tanzania	Mr. Palemon Gasto RUJWAHULA (肢体)	2002	Secretary General	Tanzania Association of the Disabled (Chawata)	タンザニア障害者団体の事務局長。アフリカの10年の実行委員会委員・相談役。タンザニア貧困撲滅政策プログラムの調査役。	団地で建物を設立し、必要な用具のプロジェクトプロポーザルを日本大使館に提出したが承認されなかった。	記載なし。	強力で独立した障害者団体をタンザニアに設立したい。障害者が社会で生活していくための資質を身に付け、平等な権利を有することを主張していきたい。
244	Thailand	Ms. Chirapa NIWATAPANT (聴覚)	1990	Division of Deaf Project	Ratchasuda College, Mahidol University	記載なし。	記載なし。	記載なし。	タイ語手話の言語教育者になる。タイ語(書き言葉)を聴覚障害者に教える。一般の人にタイ語を教え、通訳者を育成する。タイ聴覚障害者連盟とMSワード、インターネット、フォトショップなどを教える。
365	Thailand	Mr. Quanchai KERDDAEN (視覚)	2002	Student	University of Leeds	視覚障害をもつ学生のためのキャンプ主催。	記載なし。	帰国研修員と最新情報の共有・交換。JICAまたは関係機関によるフォローアップトレーニングを実施して欲しい。	自分の知識と能力を特に障害者の教育、雇用分野のために使い貢献したい。

資料 6

事業実施経過

1. 事前打合の状況

平成 15 年 11 月 21 日（事務連絡）

JICA より帰国研修員フォローアップ（ネットワーク化・情報提供支援）に関する協力検討を依頼される。

(1) 目的

過去に実施した技術協力の成果を将来的に維持発展させることを目指し、本邦研修のフォローアップの強化に取り組んでいること。

帰国研修員及びその同窓会やカウンターパート機関、さらには技術協力プロジェクトに関わった日本国内の協力機関等は、わが国の技術協力の効果の維持発展に資すべき貴重な人的資源であるという認識に立ち、本邦研修の成果を展開させていくための活動に対し積極的に支援を行うことを目的とする。

(2) 事業内容

1) ネットワーク化及び情報提供支援サービスを実施する。

2) 帰国研修員と日本側関係者、並びに帰国研修員相互の人的ネットワークを維持・発展させ、協力関係を増進し、この一環で、帰国研修員を開発課題分野における事業の人的資源として活用するものである。

（具体的な活動）

- ① 課題別ホームページの運営
- ② メーリングリストの運営
- ③ 要求・要望による助言・情報提供
- ④ 課題別電子会議室の運営
- ⑤ 帰国研修員の人材活用制度の構築と活用
- ⑥ 本邦研修終了後の帰国研修員活動支援
- ⑦ その他

平成 16 年 2 月 19 日（フォローアップ事業についてヒヤリング）

出席者 松永 正英：JICA 東京業務第二課長、現調査役

木下真理子：JICA 東京業務第一課

沼田千好子：日本知的障害福祉連盟事務局長

上野 悦子：リハ協国際専門職

(1) 事業の位置付け

JICA 東京のトライアル事業（平成 15 年度から 16 年度、以降も検討される。）

(2) 事業に関する JICA のねらい

日本での研修の成果を根付かせ、内在化、内発的發展を促す。そのため、研修

内容を良くしたい。帰国研修員には将来的に、日本のパートナーとして他国への協力の担い手になってほしい。

(3) JICA の将来構想

JICA 内で、障害担当部署を置き、専門性を持つ職員を置く。活動としては、日本と途上国の相対比較調査研究。

(4) リハ協への依頼内容

- ① 平成 16 年 3 月中旬には委託契約をしたい。(予算上限 500 万円) 事業完了は 16 年 10 月末。
- ② ニーズ調査 (16 年夏までに終わること。)
- ③ コーチング (帰国研修員への専門的アドバイス)
- ④ ネットワークの構築
- ⑤ 情報・資料提供
- ⑥ その他

調査の際、現地で帰国研修員が何らかの事業を実施できる場合は、別途、事業予算を組むことが可能。(ワークショップ、セミナー開催など、上限 2 万ドル)

平成 16 年 3 月 15 日・17 日 (事業企画案について内部検討会)

(1) 目的について

(2) 平成 16 年度事業案

- ① 検討委員会の設置
- ② 現状把握及びニーズ調査
- ③ 次年度以降のフォローアップ方法の検討
- ④ トライアル事業の実施
- ⑤ 資料の翻訳 (和文の英訳)
- ⑥ ホームページの開設

(3) 期待される効果

(4) スケジュール案

(5) 予算案

平成 16 年 4 月 7 日 (JICA と業務委託契約の締結)

(1) 実施主体：財団法人日本障害者リハビリテーション協会

(独立行政法人国際協力機構 JICA 東京からの委託事業)

(2) 名称：障害者支援ソフト型フォローアップ事業「帰国研修員活動支援」

(3) 委託業務内容

- ① 検討委員会の設置
- ② アンケート調査の実施
- ③ 帰国研修員リストの作成

- ④ 現況情報の確認調査
- ⑤ ホームページコンテンツ開発
 - ・ 提供する情報の検討と作成
 - ・ コンテンツの英訳・校正
- (4) 今後の検討課題のまとめ
- (5) 業務完了報告書の提出
- (6) 成果品
 - ① 質問表
 - ② 帰国研修員リスト
 - ③ ニーズの取りまとめ
 - ④ 提供情報案
 - ⑤ 今後の検討課題
- (7) 事業完了期限 平成 16 年 10 月 31 日
- (8) その他

平成 16 年 11 月以降の業務については、業務内容を別途見直し、改めて契約を行うものであること。

平成 16 年 4 月 9 日意見交換会

- (1) 事業内容の確認

情報提供事業について
- (2) アンケート項目の意見交換

日本知的障害福祉連盟のアンケート案をたたき台として検討。
- (3) 今後の予定について

検討委員は定員 6 名のうち 4 名は、専門家コース（現・就労コース）、リーダーコースより各 2 名とし、人選は各コース企画委員長に相談する。その他 2 名については、海外事情に精通している学識経験者とする。

2. 検討委員会の開催状況

第 1 回検討委員会（平成 16 年 5 月 12 日：戸山サンライズ）

- (1) 検討委員の紹介
- (2) 事業の意義・目的の説明：中野勉 JICA 東京人間開発チーム主査（現・チーム長）
- (3) 対象コースの説明
- (4) 今年度事業の説明
- (5) アンケート項目の検討
- (6) その他

第 2 回検討委員会（平成 16 年 9 月 3 日：JICA 本部）

- (1) アンケート調査報告：リハ協

- (2) 資料翻訳関係の現況報告：リハ協
- (3) 調査結果中間報告及び意見交換
 - ① 今回の調査でニーズの把握はできた
 - ② 情報提供の方法として、回答者のほとんどがインターネット使用可能なため、ホームページを開設
 - ③ 各国にホームページ管理者を設置
 - ④ コンテンツは調査結果で明らか
 - ⑤ 事例の紹介（成功例、失敗例）団体の紹介
 - ⑥ 調査結果の分類整理が必要
 - ⑦ フォローアップミッションの必要性
 - ⑧ 回答数が少ないため、もう一工夫し別途検討、ただし、事業報告等の関係から 9 月 30 日締め切りで再調査する
 - ⑨ 日本の団体が行っている海外を対象とした研修制度の紹介

第 3 回検討委員会（平成 16 年 10 月 20 日：JICA 本部）

- (1) アンケート追加調査の現状報告
- (2) 資料翻訳の経過報告（英訳の完成は 11 月末になる）
- (3) フォローアップ後半事業の検討

3. アンケート関係の実施状況

- (1) 平成 16 年 6 月 4 日（第 1 回調査の実施）
 - アンケート 27 通（点字版）自宅住所あて送付
- (2) 同年同月 5 日（第 1 回調査の実施）
 - アンケート 347 名、自宅住所あて送付
- (3) 平成 16 年 6 月 15 日（第 2 回調査の実施）
 - 検討委員、リハ協職員の協力を得てメールアドレスを調べ、メールによる調査を実施。
- (4) 平成 16 年 7 月 16 日 回答 64 通受理
- (5) 平成 16 年 7 月 22 日 回答 73 通受理
 - ① 各国のキイパーソン、協力者に帰国研修員リストを送付
 - ② 回答者および同じ事務所の者に対して回答促進の協力を依頼。
 - ③ あて先不明は、勤務先に再送。（効果なし）
- (6) 平成 16 年 8 月 25 日 総数 90 通の回答受理。
- (7) 同年同月 30 日 総数 91 通の回答受理集計作業に入る。
- (8) 平成 16 年 9 月 6 日（内部検討会：リハ協）
 - 出席者：上野博検討委員、上野悦子、中谷桂子
 - ① 回答数の増加を図るための方策を検討。
 - ② 回答者から未回答者へ回答方の依頼。
 - ③ 上野博検討委員に個人的に連絡を取り合っている帰国研修員に対する回答方の

協力を依頼。

- ④ ネパール JICA 事務所の西村愛志氏に協力依頼。(電話もないため、時間がかかり、結果的に 3 名の回答を得る。)

- ⑤ JICA からインドネシアに派遣している谷口大司専門家に協力依頼。

(10 月 27 日に谷口専門家より回答、30 名に対し調査・照会を行った結果、11 名 F A X 照会、定年により所在不明 6 名、転職・転勤による住所不明 6 名、物故者 3 名、住所判明で音信不通 4 名であり、1 通のみ回答を得る。

- ⑥ 香港、韓国、シンガポールは、ODA 卒業国のため、追跡調査は行わないこととする。

(9) 平成 16 年 10 月 6 日 (帰国研修員データによる調査)

- ① 中国・パキスタン・インドネシアの 3 カ国情報による調査
- ② パキスタン 9 通、インドネシア 1 通、中国 FAX6 通、メール 16 通を発信。
- ③ 和山、滝沢職員により回答者経由で未回答者へコンタクトを取る。(コンタクト方法は、メール、FAX、電話とした。)
- ④ 上記の①～③による結果は、転職、転勤により連絡不能、FAX 照会の 9 割は、番号の変更か返戻された。
- ⑤ 回答者 1 名を得る。

4. 資料提供関係の実施状況

(1) 平成 16 年 6 月 11 日

小俣典之検討委員から「サービスの手引き」にしてはどうか。との提案を受ける。

(2) 平成 16 年 6 月 15 日

- ① 新宿区「福祉の手引き」、岩手県「保健福祉ガイドブック」を取り寄せ検討開始。
- ② 各検討委員から、「障害者の等級分類」、その他「障害者基本法英語版」、「身体・知的・精神障害者実態調査」、「海外との交流を実施している日本の障害者団体リスト」の掲載の提案を受ける。

(3) 平成 16 年 7 月 30 日

- ① 福祉サービスは自治体により内容が異なるため、「国の制度」に統一した。
- ② 資料は、「日本の障害者福祉」とし、障害者白書(平成 16 年度版内閣府)、障害者のための福祉 2004(中央法規出版)、障害保健福祉六法(中央法規出版)等を参考にし、作成することとした。

また、「障害分野関連の法律」は、平成 9 年度リハ協作成の「障害分野関連の 30 の法律」を基に加筆訂正を行い、作成することとした。

(4) 平成 16 年 8 月 4 日 日本の障害者福祉の翻訳外注。

(5) 平成 16 年 11 月 15 日 (翻訳校正)

奥野英子氏(筑波大学院助教授)へ最終校正を依頼。

